

【巻末資料 1】

収録話タイトル一覧（平凡社東洋文庫目次による）

<第 1 巻>

まえがき
慈悲の神 慈愛の神 アッラーの御名によりて
シャハリヤール王とその弟君の話
驢馬と牡牛との話

[1]商人と魔王との物語

[1a]一番目の長老の話
[1b]二番目の長老の話
[1c]三番目の長老の話

[2]漁夫と魔王との物語

[2a]ユナーン王の大臣の話
[2aa]シンディバード王の話（第 5 夜）
[2ab]裏切りもの大臣の話
[2b]石に化した王子の話

[3]荷担ぎやと三人の娘の物語（第 9 夜～第 19 夜）

[3a]第一の遊行僧の話
[3b]第二の遊行僧の話
[3ba]嫉み男と嫉まれ男の話
[3c]第三の遊行僧の話
[3d]一番年長の娘の話（または第一の娘と二匹の黒犬の話）
[3e]門番の女の話（または打傷のある第二の娘の話）

<第 2 巻>

[4]三つの林檎の物語（第 19～20 夜）

[4a]大臣ヌールッ・ディーンとシャムスッ・ディーン
の物語（第 20 夜～24 夜）

※厳密な入れ子形式ではないが、[4a]を別立ての物語とせず、「三つの林檎」の枝話とした。

[5]せむしの物語（第 24 夜～34 夜）

[5a]クリスチャンの仲買人の話（第 25～26 夜）
[5b]お台所監督の話（第 27～28 夜）
[5c]ユダヤ人の医者のお話（第 28～29 夜）
[5d]裁縫師のお話（第 29～31／…／33 夜）
[5da]理髪師のお話（第 31～33 夜）
[5daa]理髪師の一番目の兄の話
[5dab]理髪師の二番目の兄の話
[5dac]理髪師の三番目の兄の話
[5dad]理髪師の四番目の兄の話
[5dae]理髪師の五番目の兄の話
[5daf]理髪師の六番目の兄の話

裁縫師のお話の結末（第 33 夜内）

[せむしの物語の結末（第 33～34 夜）]

<第 3 巻>

[6]ヌールッ・ディーン・アリーとアニスッ・ジャリースの物語（第 34～38 夜）

[7]狂恋の奴隸ガーニム・イブン・アイユーブの物語（または商人アイユーブとその息子ガーニムおよびその娘フィトナの物語）（第 38～45 夜）

[7a]黒奴ブハイトの因果話（第 39 夜内）

[7b]黒奴カーフルの因果話（第 39～40 夜）

[8]オマル・ブヌ・アン・ヌウマーン王とそのふたりの御子シャルカーンとダウル・マカーン、そしてこの人たちに起こった驚異・珍奇な物語（第 45～145 夜）

・シャルカーンと大臣ダンダーンがオマル・ブヌ・アン・ヌウマーン王の命を受け、コンスタンティノーブルの皇帝アフリードゥーンを助けるためアルメニア王との戦に出発する話

・シャルカーンとハルドゥーブ王の娘アブリーザ姫との話

・アブリーザ姫とオマル・ブヌ・アン・ヌウマーン王の話

・アブリーザ姫とガドバーンという黒人奴隸、およびその者が姫を殺害する話

・ハルドゥーブ王が母のダートッ・ダワーヒー老夫人と商議する話

・シャルカーンが父王のもとを去り、ダマスクスに滞在する話

・ダウル・マカーンが妹ヌズハトッ・ザマーンとともに父に内緒で聖地巡礼に出る話

・ダウル・マカーンとヌズハトッ・ザマーンが聖地巡礼より戻り、エルサレムにて互いに別れる話

・ダウル・マカーンと浴場の火夫との話

・ヌズハトッ・ザマーンとハンマードという牧人{バダウィ}の話

<第 4 巻>

・ヌズハトッ・ザマーンと商人の話

・ヌズハトッ・ザマーンとシャルカーンとの話

・ダウル・マカーンと火夫の話。ふたりしてヌズハトッ・ザマーンの一行とともにバグダードに旅すること

・侍従と大臣ダンダーンの話。またオマル・ブヌ・アン・ヌウマーン王の他界のいきさつ

・オマル・ブヌ・アン・ヌウマーン王暗殺のいきさつ話

・シャルカーンとダウル・マカーンが聖戦の軍を整える話

・ムスリミーンの軍、おおいにキリスト教徒軍と戦う話

・ハルドゥーブ王の母まがつびの媼に虐殺され、山中

に埋葬される話

・ダウール・マカーンが将士とともにシャルカーンのために哀歌を詠じて悼む話

<第5巻>

[8a]タージル・ムルークとドゥンヤー姫の物語—
—恋いこがれたものと恋い慕われたもの—
(第107-137夜)

*スライマン・シャーの話

*タージル・ムルークの話

[8aa]アジーズとアジーザの話(第112
~129夜)

*タージル・ムルークとドゥンヤー姫の話

・ダウール・マカーンがコンスタンティノーブルの包
囲からバグダードに帰る話

・ダウール・マカーンと火夫との話

・ダウール・マカーンとその姪クディヤ・ファカーン
の話

・ダウール・マカーンが病にてみまかる話

・カーン・マー・カーンとクディヤ・ファカーンの話

・カーン・マー・カーンがバグダードから旅に出る話

・カーン・マー・カーンと牧人との話

・カーン・マー・カーンと騎者ガッサンとの話

・カーン・マー・カーンがギリシア人と戦う話

・カーン・マー・カーンがカハルダーシュと闘う話

・カーン・マー・カーンとサーサーン王との話

[8b]ハシーシュ食いの話(第142~143夜)

・カーン・マー・カーンが捕えられたのち、助かる話

[8c]牧人ハンマードの話(第144夜内)

※オマル・ブヌ・アン・ヌウマーン王の物語の結末とと
ともに第145夜が終わり、第146夜は(前夜最後の王か
らのリクエストによる)新たな物語によって開始

<第6巻>

[9]鳥獣と人間との物語(第146~147夜)

[10]聖者と鳩との物語(第147~第148夜)

[11]水禽とカメとの物語(第148夜内)

[12]狼と狐との物語(第148~150夜)

[12a]タカとウズラとの話(第149~150夜)

[13]ネズミとイタチとの物語(第150夜内)

[14]カラスと猫との物語(第150夜内)

[15]狐とカラスとの物語(第150~152夜)

[15a]ノミとネズミとの話(第150~151夜)

[15b]タカと肉食鳥どもとの話(第151~152夜)

[15c]スズメとワシとの話(第152夜内)

[16]ハリネズミとキジ鳩との物語(第152夜内)

[16a]商人とふたりの詐欺師との話

[17]盗人と猿との物語(第152夜内)

[17a]愚かな織匠の話

[18]孔雀とスズメとの物語(第152夜内)

[19]アリー・ビン・バッカーとシャムス・ウン・ナハ
ールとの物語(第153~170夜)

[20]カマル・ウッ・ザマーンの物語(またはシャハリマ
ーン王とその子カマル・ウッ・ザマーンとの物語)(第
170~249夜)

・カマル・ウッ・ザマーンと鬼女マイムーナとの話

・マイムーナとダハナシュとの話

・カマル・ウッ・ザマーンとその宦官との話

・カマル・ウッ・ザマーンと宰相との話

・カマル・ウッ・ザマーンとその父君との話

・ブドゥール姫とその父君との話

・ブドゥール姫とその乳兄弟マルザワーンとの話

・マルザワーンの旅の話

・マルザワーンとカマル・ウッ・ザマーンとがめぐり
会う話

<第7巻>

・マルザワーンとカマル・ウッ・ザマーンとの旅の話

・カマル・ウッ・ザマーンがブドゥール姫とめぐりあ
う話

・カマル・ウッ・ザマーンとブドゥール姫が旅立つ話

・カマル・ウッ・ザマーンと鳥との話

・カマル・ウッ・ザマーンと樹園管理人との話

・夫が失踪したあとのブドゥール姫の話

・ブドゥール姫とハヤート・ウン・ヌフースとの話

・シャハリマーン王が御子カマル・ウッ・ザマーンを
嘆き悲しむ話

・樹園管理人のもとでのカマル・ウッ・ザマーンの話

・ブドゥール姫と船長との話

・カマル・ウッ・ザマーンとブドゥール姫とが再会す
る話

・カマル・ウッ・ザマーンとハヤート・ウン・ヌフ
ース姫との話

・カマル・ウッ・ザマーンとふたりの御子アル・アム
ジャドとアル・アスアドとの話

・アル・アムジャドとアル・アスアドとハージンダー
ールとの話

・アル・アムジャドとアル・アスアドが山中を旅する
話

・アル・アスアドと拝火教徒バハラームとの話

・アル・アムジャドと仕立屋との話

・アル・アムジャドと女とそしてバハードルの話

・アル・アスアドと拝火教徒バハラームとの話

・アル・アムジャドとアル・アスアドとがめぐりあ
う話

[20a] ニイマ・ビン・アル・ラビーとその女奴隷
ヌウムとの物語(第237~247夜)

・カマル・ウッ・ザマーンの物語の残り

[21]アラッ・ディーン・アブー・シャーマーの物
語(ほくろのアラディン物語)(第249~269夜)

<第8巻>

[22]ハーティム・ウッ・ターイーの物語(第269~270
夜)

- [23]マアン・ブヌ・ザイダの物語 (第 270～271 夜)
- [24]マアン・ブヌ・ザイダと遊牧の民の物語 (第 271 夜内)
- [25]ラブタイトの町の物語 (またはレプタの町の物語) (第 271～272 夜)
- [26]アブドル・マリクの子ヒシャームと年若い牧人との物語 (第 272 夜内)
- [27]アル・マハディーの子イブラーヒームの物語 (第 272～275 夜)
- [28]アブドラー・ブヌ・アビー・キラバの物語 (またはアブドラー・ブヌ・アビー・キラバと円柱の都イラムの物語) (第 275～279 夜)
- [29]モスルのイスハークの話 (第 279～282 夜)
- [30]屠殺場の掃除夫とある貴婦人との話 (第 282～285 夜)
- [31]カリフ、ハールーン・アル・ラシードと、にせカリフ (または第二のカリフ) との物語 (第 285～294 夜)
- [32]ペルシア人アリーの物語 (第 294～296 夜)
- [33]カリフ、ハールーン・アル・ラシードと女奴隷、そしてアブー・ユースフ大師の物語 (またはイマーム・アブー・ユースフがどうしてカリフ、ハールーン・アル・ラシードとその大臣ジャアファルとを窮地から救い出したかという物語) (第 296～297 夜)
- [34]ハーリド・イブン・アブドラー・アル・カスリーの物語 (または恋人の名誉を救うため泥棒になりすました若者の物語) (第 297～299 夜)
- [35]バルマク家のジャアファルの寛仁さとそら豆売りの物語 (第 299 夜内)
- [36]ものぐさのアブー・ムハンマドの話 (第 299～305 夜)
- [37]バルマク家のヤフヤー・ブヌ・ハーリドの度量の広い物語 (第 305～306 夜)
- [38]ヤフヤー・ブヌ・ハーリドが自分の偽手紙を書いた男に度量を示した話 (第 306～307 夜)
- [39]カリフ、アルマームーンと異国の学者との物語 (第 307～308 夜)
- [40]アリー・シャルとズムッドとの物語 (第 308～327 夜)
- [41]ジュバイル・ブヌ・ウマイルとブドゥールとの恋物語 (第 327～334 夜)
- < 第 9 巻 >
- [42]ヤマンのそれがしと六人の女奴隷の物語 (またはカリフ、アル・マームーンの御前でバスラのムハンマドの物語った六人の女奴隷の品定めの話) (第 334～338 夜)
- [43]ハールーン・アル・ラシードとある女奴隷とアブー・ヌワースとの物語 (第 338～340 夜)
- [44]犬の食べ残しを食べ、それがはいていた黄金のさらを盗み取った男の物語 (第 340～341 夜)
- [45]アレクサンドリアの詐欺師と警察長官との話 (第 341～342 夜)
- [46]アル・マリク・ウン・ナーシルと三人の警察長官の物語 (第 342～344 夜)
- [46a]カイロの警察長官の話
- [46b]ブーラクの警察長官の話
- [46c]古カイロの警察長官の話
- [47]盗人と両替商との物語 (第 344～345 夜)
- [48]クースの警察長官といかさま師との物語 (第 345～346 夜)
- [49]イブラーヒーム・イブヌル・マハディーとある商人との物語 (第 346～347 夜)
- [50]貧者に施しをして両手を国王のため斬られた女の話 (第 347～348 夜)
- [51]信心家のイスラエルびとの話 (第 348～349 夜)
- [52]アブー・ハッサーン・ウッ・ズィヤーディーとホラサーンの男との話 (第 349～351 夜)
- [53]困った時の友は真の友という話 (第 351 夜内)
- [54]貧乏してのち、また金持ちとなった富人の話 (または運命に背かれ極貧となった富人の話) (第 351～352 夜)
- [55]カリフ、アル・ムタワッキルと女奴隷マハブーバとの物語 (第 352～353 夜)
- [56]屠殺人ワルダーンと美女と熊との物語 (第 353～355 夜)
- [57]王女と猿との物語 (第 355～357 夜)
- [58]黒檀の馬の物語 (第 357～371 夜)
- [59]ウンス・ル・ジュードとアル・ワルド・フィール・アクマームとの物語 (第 371～381 夜)
- [60]アブー・ヌワースと三人の若衆とカリフとの物語 (第 381～383 夜)
- [61]アブドラー・ブヌ・マアマルとバスラ男とその女奴隷との話 (第 383 夜内)
- [62]ウドラ族の恋人たちの話 (第 383～384 夜)
- [63]ヤマンの大臣とその弟君との話 (またはヤマンの大臣バドル・ウッ・ディーンとその弟、および弟の師匠の話) (第 384 夜内)
- [64]書塾での少年と少女との恋の話 (第 384～385 夜)
- [65]アル・ムタラムミスとその妻との話 (第 385 夜内)
- [66]カリフ、ハールーン・アル・ラシードと泉水の中のズバイダ正妃との話 (第 385～386 夜)
- [67]ハールーン・アル・ラシードと三人の詩人との話 (第 386 夜内)
- [68]アッ・ズバイルの子ムスアブとタルハの娘アーイシャとの話 (第 386～387 夜)
- [69]アブル・アスワドがその女奴隷を歌った話 (第 387 夜内)
- [70]ハールーン・アル・ラシードと二人の女奴隷との話 (第 387 夜内)
- [71]ハールーン・アル・ラシードと三人の女奴隷との話 (第 387 夜内)
- [72]粉屋とその妻との話 (第 387～388 夜)
- [73]うつけ者と詐欺師との話 (第 388 夜内)
- < 第 10 巻 >

- [74]カリフ、ハールーン・アル・ラシードとズバイダ正妃との話（または法官アブー・ユースフとズバイダ正妃との話）（第 388～389 夜）
- [75]カリフ、アル・ハーキムとある商人との話（第 389 夜内）
- [76]キスラー（ホスロー）・アヌーシルワーン王と農家の娘との話（第 389～390 夜）
- [77]水運びの男と金細工師の妻との話（第 390～391 夜）
- [78]ホスロー大王とシーリーンと漁師との話（第 391 夜内）
- [79]バルマク家のヤフヤー・ブヌ・ハーリドと貧乏男との話（第 391～392 夜）
- [80]ムハンマド・アル・アミンとシャアファル・ブヌ・ムーサー・アル・ハーディとの話（第 392 夜内）
- [81]サーイド・ブヌ・サーリム・アル・バーヒリーとバルマク家の御曹子たちの話（第 392～393 夜）
- [82]まんまと夫を騙した女の話（第 393～394 夜）
- [83]信仰篤いイスラエルの女と邪悪な二老人との話（第 394 夜内）
- [84]カリフ、ハールーン・アル・ラシードとジャアファルと遊牧の老人との話（第 394～395 夜）
- [85]オマル・ブヌル・ハッターブと若い牧人との話（第 395～397 夜）
- [86]カリフ、アルマームーンとピラミッドとの話（第 397～398 夜）
- [87]盗人と商人との話（第 398～399 夜）
- [88]マスルールとイブヌル・カーリビーとの話（またはカリフ、ハールーン・アル・ラシードとイブヌル・カーリビー）（第 399～401 夜）
- [89]カリフ、ハールーン・アル・ラシードと苦行修行のその御子との話（第 401～402 夜）
- [90]歌を聞いて恋をした書塾の教師の話（第 402～403 夜）
- [91]愚かな教師の話（第 403 夜内）
- [92]読み書きを知らぬ教師の話（第 403～404 夜）
- [93]ある国王と操正しい女との話（第 404 夜内）
- [94]アブドル・ラフマーン・アル・マグリビーが語った巨鳥ルフの話（第 404～405 夜）
- [95]アディー・ブヌ・ザイドとアン・ヌウマーン王の娘ヒンドとの話（第 405～407 夜）
- [96]ディビル・アル・フザーイーと女人ムスリム・ブヌル・ワリードとの話（第 407 夜内）
- [97]モスルのイスハークと商人との話（第 407～409 夜）
- [98]三人の薄幸な恋人たちの話（または、老いた牧人の語った恋の話）（第 409～410 夜）
- [99]タイイー部族の恋人たちの話（または、カーシム・ブヌ・アディの伝えたある恋物語）（第 410～411 夜）
- [100]恋に気の狂った男の話（または、アブル・アッパース・アル・ムバルラドが伝えた恋の物語）（第 411～412 夜）
- [101]イスラムに改宗した修道院長の話（または、アブー・バクル・ブヌ・ムハマンド・アル・アンバーリーが語ったアブドル・マシーフ・アル・ラーヒブの物語）（第 412～414 夜）
- [102]アブー・イーサーと女奴隷クルラトル・アインの恋物語（第 414～418 夜）
- [103]アル・アミンとその叔父イブラーヒーム・イブヌル・マハディーとの話（第 418～419 夜）
- [104]カリフ、アル・ムタワッキルとアル・ファトフ・ブヌ・ハーカーンとの話（第 419 夜内）
- [105]美男と美女との優劣についてある女流学者が論争した話（またはハマーの町の女説教師の話）（第 419～423 夜）
- [106]アブー・スワイドときれいな老女との話（第 423～424 夜）
- [107]アリー・ブヌ・ムハンマド・ブヌ・アブドラー・ブヌ・ターヒルと女奴隷ムニスとの話（第 424 夜内）
- [108]二人の女とその恋人たちとの話（第 424 夜内）
- [109]カイロの商人アリーの物語（またはバグダードの妖怪屋敷）（第 424～434 夜）
- [110]メッカ巡礼の男と老女との話（第 434～436 夜）
- [111]女奴隷タワッドの物語（第 436～462 夜）
- <第 11 巻>
- [112]死の天使とたかぶる王者と篤信家との話（第 462 夜）
- [113]死の天使と富める王者との話（第 462 夜～463 夜）
- [114]死の天使とイスラエルの民の王との話（第 463～464 夜）
- [115]イスカンダル・ドゥル・カルナインと貧しい民との話（またはイスカンダル・ドゥル・カルナインと貧に甘んじている王者との話）（第 464 夜内）
- [116]アヌーシルワーンがその統治に対し正義を旨とした話（第 464～465 夜）
- [117]イスラエルの子孫たちの法官と信心深いその妻との話（第 465～466 夜）
- [118]乗船が難破した婦人の話（またはカアバの側の信心深い女人と預言者の子孫のひとりとの話）（第 466～467 夜）
- [119]信心深い黒人奴隷の話（第 467～468 夜）
- [120]イスラエルの子らのうちのある信心深い男の話（または敬神家の木皿造り師とその妻との話）（第 468～470 夜）
- [121]ハッジャー・ブヌ・ユースフと信心深い男との話（第 470～471 夜）
- [122]火中に手を入れてもやけどせぬ敬神の鍛冶屋の話（第 471～473 夜）
- [123]神が雲を駆使する力を授けたもうたある敬神家の話（第 473～474 夜）
- [124]カリフ、オマル・ブヌル・ハッターブのある教友の話（またはあるムスリムの戦士とクリスチャンの娘との話）（第 474～477 夜）
- [125]イブラーヒーム・イブヌル・ハッワースとある王女との話（またはクリスチャンの王女とあるムスリムと

の話) (第 477~478 夜)
[126]ある預言者と神の正義についての話 (第 478~479 夜)

[127]ナイルの渡し守とある聖者との話 (第 479 夜内)
[128]ある島の王となった敬神家のイスラエル人の話 (第 479~481 夜)

[129]アブル・ハサン・アッ・ダルラージュと癩を病むアブー・ジャアファルとの物語 (第 481~482 夜)

[130] ^{くちなわ} 蛇の女王の物語 (またはハーシブ・カリーム・ウッ・ディーンの物語) (第 482~536 夜)

[130a]ブルーキーヤーの話 (第 486~498 [・531] 夜)

[130aa]ジャーン・シャーの話 (第 499~531 夜)

<第 12 巻>

[131]海のシンドバードと陸のシンドバードとの物語 (第 536~566 夜)

[131a]海のシンドバードの第一航海の話 (第 538~542 夜)

[131b]海のシンドバードの第二航海の話 (第 542~546 夜)

[131c]海のシンドバードの第三航海の話 (第 546~550 夜)

[131d]海のシンドバードの第四航海の話 (第 550~556 夜)

[131e]海のシンドバードの第五航海の話 (第 556~559 夜)

[131f]海のシンドバードの第六航海の話 (第 559~563 夜)

[131g]海のシンドバードの第七航海の話 (第 563~566 夜)

海のシンドバードの第八航海の話 (A テキスト)

[132]黄銅城の物語 (第 566~578 夜)

[133]女たちのずるさとたくらみの物語 (または七人の大臣たちの物語) (第 578~606 夜)

[133a]ある国王とその大臣の妻との話 (第 578~579 夜)

[133b]ある商人とおうむとの話 (第 579 夜内)

[133c]洗い張りやとその息子との話 (第 579~580 夜)

[133d]道楽ものと貞節な妻女との話 (第 580 夜内)

[133e]けちな男と二塊のパンの話 (第 580~581 夜)

[133f]女とその二人の情人との話 (第 581 夜内)

[133g]ある王子とグーラ (鬼女) との話 (第 581~582 夜)

[133h]一滴の蜂蜜の話 (第 582 夜内)

[133i]おのが亭主に土砂を篩 {ふる} いわけさせた女の話 (第 582 夜内)

[133j]魔法の泉の話 (第 582~584 夜)

<第 13 巻>

[133k]浴場主とその妻の話 (第 584 夜内)

[133l]美女と放蕩者の話 (第 584~586 夜)

[133m]金細工師と絵に描かれた乙女の話 (第 586~587 夜)

[133n]一生涯笑わなかった男の話 (第 587~591 夜)

[133o]ある王子と商人の妻の話 (第 591~592 夜)

[133p]買われた奴隷と優雅な男の妻の話 (第 592~593 夜)

[133q]国の高官らを手玉にとった女の話 (第 593~596 夜)

[133r]聖断の夜に三つの願いをかけた男の話 (第 596 夜内)

[133s]風呂番女を懲らしめて後悔した王の話 (第 596~597 夜)

[133t]雌雄二羽のハトの話 (第 597 夜内)

[133u]アッダトマー姫とペルシア王子の話 (第 597~598 夜)

[133v]老婆と商人の息子の話 (第 598~602 夜)

[133w]散策に出たある王子と魔物の話 (第 602~603 夜)

[133x]盲目の老人と三歳と五歳の少年の話 (第 603~606 夜)

[134]商人ウマルと三人の息子、サーリムとサリームとジャウダルの物語 (第 606~624 夜)

[135]クンダミルの王子のアジーブとガリーブの物語 (第 624~680 夜)

<第 14 巻>

[136]アブド・アッラーフ・ブヌ・アマアル・アルカイシーとオトバ・ブヌ・アルジュッバーンの物語 (第 680~681 夜)

[137]アンヌアマンの娘ヒンドとアルハッジャージュの物語 (第 681~683 夜)

[138]フザイマ・ブヌ・ビシュルとイクリマ・アルファイヤードの物語 (第 683~684 夜)

[139]書記ユヌスと世継アルワリード・ブヌ・サフルの物語 (第 684~685 夜)

[140]ハールーン・アッラシードと娘たちの物語 (第 685~686 夜) 【cf. 第 12 巻アル・ラシード】

[141]ハールーン・アッラシードのご前での、三人の娘についてのアルアスマイーの物語 (第 686~687 夜)

[142]アブー・イスハーク・イブラーヒーム・アルマウシリーと悪魔アブー・ムッラの物語 (第 687~688 夜)

[143]カリフ、ハールーン・アッラシードとジャミール・

ブヌ・アマアル・アルウズリーの物語（第 688～691 夜）
〔“ウドラ族の恋人たち”〕

[144]ベドウィンがムアーウィアに訴えたマルワーン・ブヌ・アルハカムの悪業の物語（第 691～693 夜）〔“ベドウィンとその忠実な妻”〕

[145]フサイン・アルハリールがハールーン・アッラシードのご前でしたバスラの女の恋物語〔“バスラの恋人たち”〕（第 693～695 夜）

[146]イスハーク・アルマウシリーと奴隷娘と盲人（悪魔）の物語（第 695～696 夜）

[147]イブラーヒーム・ブヌ・イスハークと若者の物語（第 696～697 夜）〔“メディナの恋人たち”〕

[148]大臣アブー・アーミル・ブヌ・マルワーンとアルマリク・アンナーシルの物語（第 697～698 夜）

[149]アフマド・アッダナフとハサン・シャウマーンと女ベテン師ザイナブおよびその母の物語（第 698～708 夜）

[150]エジプト人アリー・アッザイバクの物語（第 708～719 夜）

【149&150：“悪女ダリーラの物語”（698～719 夜）】

[151]アッサイフ・アルアザム・シャーの王子アズダシールとアブド・アルカーディル王の息女ハヤート・アンヌフース姫の恋物語（第 719～738 夜）

<第 15 巻>

[152]ホラサーンのシャフルマーン王の物語（第 738～756 夜）〔“海のジュルナール”または“海人ジュルナールとその息子ペルシア王バドル・バーシム”あるいは“バドル王子とサマンダルのジャワール姫？”〕

[153]ムハンマド・サバーイク王と商人ハサンの物語（第 756 夜～778 夜）

[153a]サイフ・アルムルークとバディーア・アルジャマールの物語（第 758～778 夜）

[154]商人と金細工師と銅細工師を営むふたりの息子、および金細工師の息子ハサンとペルシアの詐欺師にまつわる物語（第 778～831 夜）〔“バスラのハサン”〕

<第 16 巻>

（“バスラのハサン” つづき）

[155]バグダードの漁師ハリーフアの物語（第 831 夜～845 夜）

[156]商人マスルールと彼が見た夢の物語（第 845～863 夜）〔“マスルールとザイン・エル・マワーシフ”〕

<第 17 巻>

[157]ヌール・アッディーンと帯網娘マルヤムの物語（第 863～894 夜）

[158]カイロの領主ジャーウ・アッディーン・ムハンマドと褐色の男の物語（第 894～896 夜）〔“上エジプトから来た男”〕

[159]バグダードの金持ちと奴隷娘の物語（第 896～899 夜）

[160]インドの王ジュライアードと大臣シャンマースの物語（第 899～930 夜）

[160a]猫と鼠の物語（第 900～902 夜）

[160b]頭にバターをかけられた行者の話（第 902～903 夜）

[160c]池の魚の話（第 903 夜内）

[160d]鴉と蛇の話（第 903～904 夜）

[160e]野生のロバと狐の話（第 904～905 夜）

[160f]旅をする王子の話（第 905～906 夜）

[160g]鴉の話（第 906～907 夜）

[160h]蛇使いとその妻と子供と一家の者の話（第 907～908 夜）

[160i]蜘蛛と風の話（第 908～909 夜）

[160j]公正な王と邪悪な王の話（第 909～910 夜）

[160k]盲人と両足の萎えた男の話（第 910～918 夜）

[160l]漁夫の話（第 918 夜内）

[160m]若者と泥棒の話（第 918～919 夜）

[160n]妻のために身を亡ぼした男の話（第 919～920 夜）

[160o]商人と泥棒たちの話（第 920～921 夜）

[160p]狐と狼の話（第 921 夜内）

[160q]羊飼いと泥棒の話（第 921～924 夜）

[160r]黒雷鳥と亀の話（第 924 夜内）

<第 18 巻>

[161]染物屋アブー・キールと床屋アブー・シールの物語（第 930～940 夜）

[162]陸のアブド・アッラーフと海のアブド・アッラーフの物語（第 940～946 夜）

[163]教王（カリフ）ハールーン・アッラシードとアブー・アルハサン・アルオマーニーの物語（第 946～952 夜）

[164]エジプト領主アルハーシブの息子イブラーヒームの物語（第 952～959 夜）〔“イブラーヒームとジャミーラ”〕

[165]教主（カリフ）アルムウタディド・ビッラーヒとホラサーンのアフマドの息子アブー・アルハサン・アリーリーの物語（第 959～963 夜）

[166]商人アブド・アッラフマーンとその息子カマル・アッザマーンの物語（第 963～978 夜）〔“カマル・アッザマーンと宝石商の妻”〕

[167]アブド・アッラーフ・ブヌ・ファーディルと兄弟たちの物語（第 978～989 夜）

[168]靴直しマアルーフとその妻ファーティマの物語（第 989～1001 夜）

〔大枠の物語——結末〕

別巻

[別 1]「アラッ・ディーンと魔法のランプの物語」

[別 2]「アリババと四十人の盗賊の物語」

【巻末資料2】

『千夜一夜』生成過程略年表

I 期

(インドの物語：聡明な少女が物語を語ることで窮地を脱する)

↓

(ペルシアの物語集『千物語 (フザール・アフサーン)』)

630 預言者ムハンマドのメッカ征服・661 ウマイヤ朝創設

710 イスラム教徒のスペイン侵入

750 アッバース朝 (-1258) 創設・762 バグダード建設

II 期

8C ペルシア語の『千物語』をアラビア語に翻訳

8~10C バグダードでの変容と増殖 (『千物語』アルフ・フラーファ→『千夜』アルフ・ライラ→『千夜一夜』)

アラブ化 (イスラーム化)

普及：講釈師による口演の伝統

物語の付加：アラブの古伝説・伝承、アッバース朝カリフたちの物語、バグダードの恋物語、古代メソポタミアの伝説など

・9C 現存最古の写本断片 (『キターブ・ハディース・アルフ・ライラ』のタイトル)

*マスウーディ (896-956) 『黄金の牧場』のなかでの『アルフ・ライラ』への言及

*書店主イブン・アンナディーム (-990頃) 『キターブ・アル・フィフリスト』での言及

(10世紀半ば以降 バグダードは荒廃)

969 ファーティマ朝 (-1171) のエジプト征服・カイロ建設

10~15C カイロを中心とするエジプトでの発展 (およびシリアでの発展)

物語の大規模な付加：武勇談 (戦記物)、市井もの、魔法もの、など

*12Cの貸本記録 (カイロ) に『千一夜』 (アルフ・ライラ・ワ・ライラ)

1250 マムルーク朝 (-1517) エジプト・シリアを統治

・14C

~15C ガランの依拠したシリア系写本の作成 (200夜ほど)

レインの説：180ほどの話を含む「現在の形」に近い形態まで発展？

1517 オスマン・トルコ (1299-1922) のエジプト征服：「中世アラビア」の終焉

III 期

1703-1717 アントワーズ・ガランによるフランス語版『千一夜』：ヨーロッパへの紹介

18~19C初 ガランの仏訳版『千一夜』からの重訳：英語 (スコットほか多数)・独語 (フォン・ハンマーほか) へ

→ ヨーロッパでの『アラビアン・ナイト』への熱狂

・写本の発見・ガランへの補遺の試み

・ヨーロッパに知られている現存写本のほとんどはこの時期に書かれたもの (by シャイフたち)

・子供向けおとぎ話集として普及

1775頃 ZER (1001夜、180ほどの話を含む) の親写本の成立

↓

19世紀 アラビア語による印刷本

カルカッタ第一版 1814-1818；ブレウスラウ版 1824-1843；

ブーラーク版 1835；カルカッタ第二版 1839-1842

19世紀~ 新たな翻訳刊行：アラビア語印刷本 (+諸写本) に依拠

レイン (英) 1839-41, 3vols.；ペイン (英) 1882-84, 9vol.；バートン (英) 1885, 10vols.；

マルドリユス (仏), 1899-1904, 16vols.；リットマン (独) 1921-28, new eds. 1953, 54, 60, 6vols.

・ほかにロシア語、スペイン語、イタリア語などへ

・前嶋信次・池田修訳『アラビアン・ナイト』 (平凡社東洋文庫版)、18巻および別巻1、1976-1992

・1984 ムフシン・マフディ、ガラン写本 (フランス国立図書館蔵、3vol.) を発見し、校訂・印刷

→ 1990 H・ハッダウィによる英語訳

・フランスでプレイアード版刊行 2005-2007

【巻末資料 3】 『千夜一夜』の主要な写本・印刷本・訳本

▼ 現存アラビア語写本

エジプト系・シリア系に大別。多くは 18 世紀から 19 世紀初頭に書かれたもの。
ほぼ完全なものから断片まで長短さまざまで、その総数は現在では 70 にものぼるとされる。
本資料補足〈ゾタンベールによる『千夜一夜』写本の系列整理〉を参照のこと。

▼ 主要アラビア語印刷本 ألف ليلة و ليلة

1. カルカッタ第一版〔インド〕1814-1818: シルワーニー編纂。最初の 200 夜分のみ収録+ “船乗りシンドバッド”。語学教科書。
The Arabian Nights Entertainments; In the Original Arabic. Published under Patronage of the College of Fort William; by Shuekh Uhmud bin Moohummud Shirwane ul Yumunee. Calcutta, vol.I, 1814; vol. II, 1818.
2. ブレウスラウ版〔ドイツ〕1824-1843: ハビヒト編纂（フライシャーが継続），“チュニジア写本”によると自称。出典の疑わしい部分、つぎはぎの感あり、『千夜一夜』に本来含まれない物語も収める。
Tausend une Eine Nacht Arabish. Nach einer Handschrift aus Tunis herausgegeben von Dr. Maximilian Habicht, Professor an der königlichen Universität zu Breslau, ..., nach seinem Tode fortgesetzt von M. Heinrich Leberecht Fleicher, ordentlichem Prof. der morgenländischen Sprachen an der Universität Leipzig. Breslau 1825-1843.
3. ブーラク版〔カイロ郊外〕1835: 18 世紀にエジプトで作成されたとされる信頼できる写本（その後散逸）をもとに。現行の『千夜一夜』の全体を収める。学識ある人物（アッ・シャルカーウィ）によって校訂。
الف ليلة و ليلة / مقابلة وتصحيح محمد قطة العدوي. بغداد: يطلب من مكتبة المثني
4. カルカッタ第二版（版）1839-1842: 英国人マックナーテンによる校訂。エジプト系写本による。しばしばブーラク版よりも長い、補充されたテキスト。カルカッタ第一版、ブレウスラウ版にも拠っている。
The Alif Laila or the Book of the Thousand Nights and one Night, Commonly known as “The Arabian Nights Entertainments”, now for the first time, published complete in the original Arabic, from Egyptian manuscript brought to India by the late Major Turner, editor of the Shah-Nameh. Editide by W. H. Machnaghten. Esq. In four bolumes. Calcutta 1839-1842.
5. ムフシン・マフディによる校訂版（ガランの用いた写本の印刷出版）:
Muhsin Mahdi, *Alf Layla wa-Layla*, Leiden, 1984, 2vols.

▼主要翻訳版

＜先駆的なもの＞

- Antoine Galland, 1703-1715, 12vols. (仏)
Les Mille et une Nuits, contes arabes, traduits par Antoine Galland., vol.1-6 :1704, vol.7 :1706, vol.8 :1709, vol.9-10 :1712, vol.11-12 :1715
14-15 世紀のシリアの写本、およびアラブ人ハンナ・ディヤーブの口述・記述にもとづく。60 編ほど。
- Jonathan Scott, 1811, 6vola. (英) *Arabian Nights' Entertainments*
ガランの英語への重訳。第 6 巻は新たな物語を写本から訳出。
- Von-Hammer-Purgstall (仏)
カイロでいわゆる ZER に属する写本を入手し、そこからフランス語にガランの未紹介の物語を訳出。散逸。→そのドイツ語への重訳 1823, 3vols.→その英訳 by Lamb, 1826、仏訳 by Trébutien, 1828

<アラビア語印刷本にもとづく翻訳>

- Edward William Lane, 1839-41, 3vols.(英)
The Thousand and One Nights, commonly called, in England, the Arabian Nights' Entertainments, a new translation from the Arabic, with copious notes by Edward William Lane, Author of "The Modern Egyptians," illustrated by many hundred engravings on wood, from the original designs of William Harvey, London, vol.1: 1839, vol.2: 1840, vol.3: 1841
ブーラク版に基き、カルカッタ第一版とプレスラウ版を適宜利用。抄訳。豊富な注。
- John Payne, 1882-84, 9vols.(英) カルカッタ第二版に依拠。適宜他の版も利用。補遺として、*Tales from the Arabic*, 1884, 3vol.さらに 1889 年に 1 巻を追加 (orphan stories を写本から訳出)。信頼に値する。
- Richard Burton, 1885, 10vols.: 補遺 1886-88, 6vols. (英)
A Plain and literal translation of the Arabian nights' entertainments, now entitled The Book of the Thousand Nights and a Nights. With introduction, explanatory notes on the manners and customs of Moslem men and a terminal essay upon the history of the nights. By Richard F. Burton, 10vol., 1885;
Supplemental Nights to the book of Thousand and a Nights with notes anthropological and explanatory, by Richard Burton, 6vol. 1886-1888 (vol.1: 1886, vol.2: 1887, vol.3?, vol.4: 1888, vol.5-6:?)
本編はカルカッタ第二版に依拠。適宜他の版も利用。Payne を借用している部分も多い。原語に忠実な信頼しうる訳。性に関する詳細な注記。
補遺は、プレスラウ版、ガラン版、モンタギュー写本のテキスト、シャヴィ&カゾットのテキストから、計 61 編を訳出。
- Joseph C.Mardrus, 1899-1904, 16vols. (仏)
Joseph C. Mardrus, *Le Livre des Mille Nuits et une Nuits, Traduction littérale et complète du texte arabe par le Dr. J. C. Mardrus, Fasquelle Éditeurs (Paris), 16vols.,1899-1904.*
ブーラク版に依拠と自称。orphan stories をガランから。全訳ではなくさまざまな出所からの物語を交えた自由な編纂による。文体・文面も翻案に近いスタイル。注はほとんどなし。
- Enno Littemann, 1921-28, new eds. 1953, 54, 60, 6vols.(独)
Die Erzählungen aus den Tausendundein Nächten, zum ersten Mal nach dem arabischen Urtext der Calcuttaer Ausgabe aus dem Jahre 1839 übertragen, 1921-1928
カルカッタ第二版に依拠。必要に応じて、断わった上で他の版を紹介。ただし orphan stories を写本およびバートンから訳出して挿入。世界初の学術校訂本と言われる。適切な注。
- 前嶋信次・池田修訳『アラビアン・ナイト』(平凡社東洋文庫版)、18 巻および別巻 1、1976-1992。
カルカッタ第二版に依拠した、リットマン同様のきわめて信頼性の高い校訂版。
- Husain Huddawy, 1990.(英) ムフシン・マフディによる校訂版の英語訳
The Arabian Nights, translated by Husain Haddawy, Based on the text of the Fourteenth-Century Syrian Manuscript edited by Muhsin Mahdi, Everyman's Library, 1990
- Jamel Eddine Bencheikh & Adnré Miquel, 2005-2007, 3vols. (仏)
Les Mille et Une Nuits, texte traduit et présenté par Jamel Eddine Bencheikh et Adnré Miquel, et annoté par André Miquel, Bibliothèque de la Pléiade, Gallimard, 3vols., vol. 1 (Nuits 1 à 327): 2005, vol. 2 (Nuits 327 à 719): 2006, vol. 3 (Nuits 719 à 1001) : 2007

その他の日本語訳： 明治 8 年から、さまざまなヨーロッパ言語からの重訳がある

- 岩波文庫版『千一夜物語』(豊島与志雄ほか訳、全 13 巻) マルドリュスからの重訳
- ちくま文庫版(佐藤正彰訳、全 10 巻) 岩波文庫版の個人全訳による改訳

〈補足：ゾタンペールによる『千夜一夜』写本の系列整理〉

Cf. Zotenberg, « Notice sur quelques manuscrits des
Mille et une nuits, et la traduction de Galland », 1888

*すでに非常に古い情報であるが、写本状況の概略をつかむために提示する

I アラブ=アジア系〔のちに“シリア系”と通称される〕

最初の方だけを含む、収録話の順序はみなほぼ同じ

- 1) Ms de la Bibliothèque Nationale, ancien fonds n^{os} 1506-08 (ガラン写本)
 - 2) Ms de la Bibliothèque de Vatican, n^o 782 (15世紀のもの)
 - ×3) Ms de Patrick Russel <所在不明>
 - 4) Ms de la Bibliothèque Nationale, supplément 1715 I et II
 - 5) Ms de la Bibliothèque de Christ Church College, à Oxford, n^o CCVII
 - 6) Ms 2699 de la Bibliothèque de l'India Office, à Londres
 - ×7) Ms de William Jones <所在不明>
 - 8) Ms du British Museum, addit. 7404, fol.1-140
 - ×9) Ms de la Bibliothèque Nationale, supplément 2522 et 2523 (Sabbagh 写本)
 - ×10) Ms de la Bibliothèque Nationale, supplément 1716 (Chavis 写本)
- [*×印は所在不明のもの、および、のちに“捏造”とわかったもの]

II エジプト系〔のちの“ZER”〕: 比較的新しく、独特の文体と詳細な語りが特徴

12ほど(不完全なものを除いて)。

もとは一つの写本から派生したと考えられる

収録話多く、1001夜分収録するものもあり。18世紀末から19世紀に作成。

- ・パリ BN に完全なもの3つ(supplément arabe, 1717, 1718, 1719)、
および不完全なもの4種
- ・大英博物館に2種 (Oriental mss. 1595-98, 2916-19)
- ・ケンブリッジ大学に1つ
- ・ヴァチカン図書館に1つ
- ・ゴータ公爵図書館に完全版1つ、さらに不揃いのもの1つ
- ・ミュンヘン王立図書館に完全版1つ、ほかに不完全1つ
- ・ウィーンのオリエンタル・アカデミー図書館
など

III 初期エジプト系: 上記IIと、また以下の相互にも、話の順序等が異なる

- 1) マイエ Maillet 写本 ms.1491A
- 2) トルコ語写本 ms.356
- 3) ハビヒトのもの
- 4) BN、1721 IV du supplément arabe
最初の210夜を含む、18世紀初めのもの。エジプトからもたらされた。
- 5) オックスフォード、ボードリアン図書館所蔵(「モンタギュー写本」)
もと8巻(第3巻目紛失)、ヒジュラ暦1177-78に書かれたもの
ほかの版とは、話の内容・順序が違う
など

【巻末資料4】

マルドリユスの省略した物語

マルドリユスが訳出にあたって、底本としたブーラク版から削除し、収録しなかった物語

*Marzolph & Leeuwen ed. *The Arabian Nights Encyclopedia*, 2004 を参照して作成。

収録話タイトルは平凡社東洋文庫による。物語の長さのめやすとするためにカルカット第二版においてのものであるが収録夜も付した。題名の前の数字も、本論文巻末資料1で用いたもの

- [16]ハリネズミとキジ鳩との物語 (第 152 夜内)
[17]盗人と猿との物語 (第 152 夜内)
[18]孔雀とスズメとの物語 (第 152 夜内)
[22]ハーティム・ウッ・ターイーの物語 (第 269~270 夜)
[23]アマン・ブヌ・ザイダの物語 (第 270~271 夜)
[25]ラプタイトの町の物語 (またはレプタの町の物語) (第 271~272 夜)
[26]アブドル・マリクの御子ヒシャームと年若い牧人との物語 (第 272 夜内)
[27]アル・マハディーの子イブラーヒームの物語 (第 272~275 夜)
[28]アブドラー・ブヌ・アビー・キラーバの物語 (またはアブドラー・ブヌ・アビー・キラーバと円柱の都イラムの物語) (第 275~279 夜)
[34]ハーリド・イブン・アブドラー・アル・カスリーの物語 (または恋人の名誉を救うため泥棒になりすました若者の物語) (第 297~299 夜)
[35]バルマク家のジャアファルの寛仁さとそら豆売りの物語 (第 299 夜内)
[37]バルマク家のヤフヤー・ブヌ・ハーリドの度量の広い物語 (第 305~306 夜)
[38]ヤフヤー・ブヌ・ハーリドが自分の偽手紙を書いた男に度量を示した話 (第 306~307 夜)
[39]カリフ、アルマームーンと異国の学者との物語 (第 307~308 夜)
[44]犬の食べ残しを食べ、それがはいっていた黄金のさらを盗み取った男の物語 (第 340~341 夜)
[45]アレクサンドリアの詐欺師と警察長官との話 (第 341~342 夜)
[46]アル・マリク・ウン・ナーシルと三人の警察長官の物語 (第 342~344 夜)
[47]盗人と両替商との物語 (第 344~345 夜)
[48]クースの警察長官といかさま師との物語 (第 345~346 夜)
[49]イブラーヒーム・イブヌル・マハディーとある商人との物語 (第 346~347 夜)
[50]貧者に施しをして両手を国王のため斬られた女の話 (第 347~348 夜)
[51]信心家のイスラエルびとの話 (第 348~349 夜)
[52]アブー・ハッサーン・ウッ・ズィヤーディーとホラサーンの男との話 (第 349~351 夜)
[53]困った時の友は真の友という話 (第 351 夜内)
[54]貧乏してのち、また金持ちとなった富人の話 (または運命に背かれ極貧となった富人の話)
[55]カリフ、アル・ムタワッキルと女奴隷マハブーバとの物語 (第 351~352 夜)
[57]王女と猿との物語 (第 355~357 夜)
[60]アブー・ヌワースと三人の若衆とカリフとの物語 (第 381~383 夜)
[61]アブドラー・ブヌ・マアマルとバスラ男とその女奴隷との話 (第 383 夜内)
[62]ウドラ族の恋人たちの話 (第 383~384 夜)
[64]書塾での少年と少女との恋の話 (第 384~385 夜)
[65]アル・ムタラムミスとその妻との話 (第 385 夜内)
[68]アッ・ズバイルの子ムアブとタルハの娘アーイシャとの話 (第 386~387 夜)
[69]アブル・アスワドがその女奴隷を歌った話 (第 387 夜内)
[71]ハールーン・アル・ラシードと三人の女奴隷との話 (第 387 夜内)
[72]粉屋とその妻との話 (第 387~388 夜)
[75]カリフ、アル・ハーキムとある商人との話 (第 389 夜内)
[76]キスラー (ホスロー)・アヌーシルワーン王と農家の娘との話 (第 389~390 夜)
[77]水運びの男と金細工師の妻との話 (第 390~391 夜)
[79]バルマク家のヤフヤー・ブヌ・ハーリドと貧乏男との話 (第 391~392 夜)
[80]ムハンマド・アル・アミーンとシャアファル・ブヌ・ムーサー・アル・ハーディとの話 (第 392 夜内)
[81]サーイド・ブヌ・サーリム・アル・バーヒリーとバルマク家の御曹子たちの話 (第 392~393 夜)
[82]まんまと夫を騙した女の話 (第 393~394 夜)
[83]信仰篤いイスラエルの女と邪悪な二老人との話 (第 394 夜内)
[85]オマル・ブヌル・ハッターブと若い牧人との話 (第 395~397 夜)
[86]カリフ、アルマームーンとピラミッドとの話 (第 397~398 夜)
[87]盗人と商人との話 (第 398~399 夜)
[89]カリフ、ハールーン・アル・ラシードと苦行修行のその御子との話 (第 401~402 夜)
[90]歌を聞いて恋をした書塾の教師の話 (第 402~403 夜)

- [91]愚かな教師の話 (第 403 夜内)
- [93]ある国王と操正しい女との離し (第 404 夜内)
- [94]アブドル・ラフマーン・アル・マグリビーが語った巨鳥ルフの話 (第 404~405 夜)
- [95]アディー・ブヌ・ザイドとアン・ヌウマーン王の娘ヒンドとの話 (第 405~407 夜)
- [96]ディビル・アル・フザーイーと女人ムスリム・ブヌル・ワリードとの話 (第 407 夜内)
- [97]モスルのイスハークと商人との話 (第 407~409 夜)
- [98]三人の薄幸な恋人たちの話 (または、老いた牧人の語った恋の話) (第 409~410 夜)
- [99]タイイー部族の恋人たちの話 (または、カーシム・ブヌ・アディの伝えたある恋物語) (第 410~411 夜)
- [100]恋に気の狂った男の話 (または、アブル・アッパー・ス・アル・ムバルラドが伝えた恋の物語) (第 411~412 夜)
- [101]イスラムに改宗した修道院長の話 (または、アブー・バクル・ブヌ・ムハマンド・アル・アンバーリーが語ったアブドル・マシーフ・アル・ラーヒブの物語) (第 412~414 夜)
- [107]アリー・ブヌ・ムハンマド・ブヌ・アブドッラー・ブヌ・ターヒルと女奴隷ムーニスとの話 (第 424 夜内)
- [109]カイロの商人アリーの話 (またはバグダードの妖怪屋敷) (第 424~434 夜)
- [110]メッカ巡礼の男と老女との話 (第 434~436 夜)
- [112]死の天使とたかぶる王者と篤信家との話 (第 462 夜)
- [113]死の天使と富める王者との話 (第 462 夜~463 夜)
- [114]死の天使とイスラエルの民の王との話 (第 463~464 夜)
- [115]イスカンダル・ドゥル・カルナインと貧しい民との話 (またはイスカンダル・ドゥル・カルナインと貧に甘んじている王者との話) (第 464 夜内)
- [116]アヌーシルワーンがその統治に対し正義を旨とした話 (第 464~465 夜)
- [117]イスラエルの子孫たちの法官と信心深いその妻との話 (第 465~466 夜)
- [118]乗船が難破した婦人の話 (またはカアバの側の信心深い女人と預言者の子孫のひとりとの話) (第 466~467 夜)
- [119]信心深い黒人奴隷の話 (第 467~468 夜)
- [120]イスラエルの子らのうちのある信心深い男の話 (または敬神家の木皿造り師とその妻との話) (第 468~470 夜)
- [121]ハッジヤージ・ブヌ・ユースフと信心深い男との話 (第 470~471 夜)
- [122]火中に手を入れてもやけどせぬ敬神の鍛冶屋の話 (第 471~473 夜)
- [123]神が雲を駆使する力を授けたもうたある敬神家の話 (第 473~474 夜)
- [124]カリフ、オマル・ブヌル・ハッターブのある教友の話 (またはあるムスリムの戦士とクリスチャンの娘との話) (第 474~477 夜)
- [125]イブラーヒーム・イブヌル・ハッワースとある王女との話 (またはクリスチャンの王女とあるムスリムとの話) (第 477~478 夜)
- [126]ある預言者と神の正義についての話 (第 478~479 夜)
- [127]ナイルの渡し守とある聖者との話 (第 479 夜内)
- [128]ある島の王となった敬神家のイスラエル人の話 (第 479~481 夜)
- [129]アブル・ハサン・アッ・ダルラージュと癪を病むアブー・ジャアファルとの物語 (第 481~482 夜)
- [133]女たちのずるさとたくらみの物語 (または七人の大臣たちの物語) (第 578~606 夜)
- ※枝話のうち 3 話のみ採用
- [135]クンダミルの王子のアジープとガリーブの物語 (第 624~680 夜)
- [138]フザイマ・ブヌ・ビシュルとイクリマ・アルファイヤードの物語 (第 683~684 夜)
- [139]書記ユーススと世継アルワリード・ブヌ・サフルの物語 (第 684~685 夜)
- [140]ハールーン・アッラシードと娘たちの物語 (第 685~686 夜) 【cf. 第 12 巻アル・ラシード】
- [141]ハールーン・アッラシードのご前での、三人の娘についてのアルアスマイーの物語 (第 686~687 夜)
- [142]アブー・イスハーク・イブラーヒーム・アルマウシリールと悪魔アブー・ムッラの物語 (第 687~688 夜)
- [143]カリフ、ハールーン・アッラシードとジャミール・ブヌ・アマアル・アルウズリーの物語 (第 688~691 夜)
- 〔“ウドラ族の恋人たち”〕
- [144]ベドウィンがムアーウィアに訴えたマルワーン・ブヌ・アルハカムの悪業の物語 (第 691~693 夜) [“ベドウィンとその忠実な妻”]
- [145]フサイン・アルハリーウがハールーン・アッラシードのご前でしたバスラの女の恋物語 [“バスラの恋人たち”] (第 693~695 夜)
- [147]イブラーヒーム・ブヌ・イスハークと若者の物語 (第 696~697 夜) [“メディナの恋人たち”]
- [153a]サイフ・アルムルークとバディーア・アルジャマールの物語 (第 758~778 夜)
- ※ (枠となる「商人ハサンの物語」の部分)を「バスラのハサン」の頭に付けている
- [159]バグダードの金持ちと奴隷娘の物語 (第 896~899 夜)
- [160]インドの王ジュライアードと大臣シャンマースの物語 (第 899~930 夜)
- [164]エジプト領主アルハーシブの息子イブラーヒームの物語 (第 952~959 夜) [“イブラーヒームとジャミール”]
- [167]アブド・アッラーフ・ブヌ・ファーディルと兄弟たちの物語 (第 978~989 夜)

平凡社東洋文庫各収録話タイトルとの対照

- 1) カルカッタ第二版では、物語の切れ目がどのように示されているかを以下に掲げる。
- 2) 第 1 夜以降は、めやすのために平凡社東洋文庫でのタイトルをまず掲げた。番号は本論文巻末資料 1 のものに対応。
- 3) 日本語訳(隷書体)は訳者による
- 4) ※印は、必要に応じて付した観察事項。

كتاب الف ليلة و ليل

千夜一夜の書

حكاية ملك ثهريار و اخيه

シャハリヤール王とその弟君の物語

حكاية الثورمع الحمار

ロバと牡牛との物語

彼(父大臣)は語った

[1] 「商人と魔王との物語」(第 1～3 夜)

حكاية التاجلجر و الجنى

商人とジンニーの物語

[2] 「漁夫と魔王との物語」(第 3～9 夜)

حكاية الصيد

漁夫の物語

[2a] 「ユーナーン王の大臣の話」(第 4～5 夜)

حكاية وزير الملك يونان

ユーナーン王の大臣の物語

[2aa] 「シンディバード王の話」(第 5 夜)

حكاية الملك السندباد

シンドバード王の物語

[2ab] 「裏切りもののお話」(第 5～)

حكاية الوزير المحتال

あくどい大臣の物語

[2b] 「石に化した王子の話」(第 7～)

青年は語り始めた

※行中に記述。段落替えなし

[3] 「荷担ぎやと三人の娘の物語」(第 9 夜～第 19 夜)

حكاية الحمال و الثلث بنات

荷担ぎやと三人の娘の物語

[3a] 「第一の遊行僧の話」

القرندلي الاول و قال

第一の遊行僧は、そして語った

※行中に記述。段落替えなし

[3b] 「第二の遊行僧の話」

ثم تقدم القرندلي الثاني و قبل الارض و قال...

そのとき第二の遊行僧が来て床に接吻しそして語った

※行中に記述。段落替えなし

※以下の枝話（[3ba] 「嫉み男と嫉まれ男の話」・[3c] 「第三の遊行僧の話」・[3d] 「一番年長の娘の話」・[3e] 「門番の女の話」）には見出しなし

[4] 「三つの林檎の物語」(第 19～20 夜)

فقال الملك قصي قصتك واعجلي فقالت زعموا يا ملك الزمان...

そして王は言った、お前の物語を物語れ、急いでな、すると彼女は語った、彼ら(人々)が述べる[=言い伝える]ところによりますと、時世の王さま……

※行中に記述。段落替えなし・強調なし

[4a] 「大臣ヌールツ・ディーンとシャムスツ・ディーンの話」(第 20 夜～24 夜)

حكايت الوزير نور الدين و اجيه

ヌールツ・ディーン大臣とその弟の物語

[5] 「せむしの物語」(第 24 夜～34 夜)

قال الملك و كيف كان ذلك قالت بلغني ايها الملك السعيد...

王が言った、ではそれはどのようなものか、そして彼女は語った、私に(次のように)伝わっております、幸多き王さまよ、

※行中に記述。段落替えなし・強調なし

※枝話については一切見出しなし

[6] 「ヌールツ・ディーン・アリーとアニスツ・ジャリースの話」(第 34～38 夜)

و ليس هذا باعجب من قصة الوزيرين و انيس الجليس قالت لها و

كيف ذلك قالت بلغني ايها الملك السعيد...

でもこれは、二人の大臣とアニスツ・ジャリースの話ほどは面白く(=不可思議では)ありません、彼女(妹のドンヤザード)は言った、それはどんなふうですの、彼女(シャハラザード)は語った、私に(次のよう

に)伝わっております、幸多き王さまよ、
※行中に記述。段落替えなし・強調なし

[7]「狂恋の奴隷ガーニム・イブン・アイユーブの物語 (または商人アイユーブとその息子ガーニムおよびその娘フィットナの物語)」(第 38~45 夜)

و ليس هذا باعجب من حكاية التاجر و اولاده قال وكيف كان
ذلك قالت بلغني ايها الملك السعيد...

でもこれは、商人とその子供たちの物語ほどは面白く(=不可思議では)ありません、彼(王)は言った、それはどんなふうか、彼女(シャハラザード)は語った、私に(次のように)伝わっております、幸多き王さまよ、

※行替えのみあり、段落替えなし・強調なし

※以下の枝話 ([7a]「黒奴ブハイトの因果話」(第 39 夜内)・[7b]「黒奴カーフルの因果話」(第 39~40 夜)) には見出しなし

[8]「オマル・ブヌ・アン・ヌウマーン王とそのふたりの御子シャルカーンとダウール・マカーン、そしてこの人たちに起こった驚異・珍奇な物語」(第 45~145 夜)

و ليس هذا باعجب من حكاية الملك عمر بن النعمان و
ولده شركان و ولده ضوء المكان و ما جرى لهم من العجائب
والغرائب قال الملك و ما حكايتهم قالت بلغني ايها الملك
السعيد...

／ でもこれは、オマル・ブヌ・アン・ヌウマーン王とその御子シャルカーンとその御子ダウール・マカーン、そしてこの人たちに起こった驚くべきこと、珍奇なことの物語ほどは面白く(=不可思議では)ありません、彼(王)は言った、彼らの物語とは何か、彼女(シャハラザード)は語った、私に(次のように)伝わっております、幸多き王さまよ

※行替えのみあり、段落替えなし・強調なし

※以下の枝話 ([8a]「タージル・ムルークとドゥンヤー姫の物語」(第 107-137 夜)・[8aa]「アジーズとアジーザの話」(第 112~129 夜)・[8b]「ハシーシュ食いの話」(第 142~143 夜)・[8c]「牧人ハンマードの話」(第 144 夜内)) には見出しなし

※オマル・ブヌ・アン・ヌウマーン王の物語の結末とともに第 145 夜が終わり、第 146 夜は(前夜末の王からのリクエストによる)新たな物語によって開始

[9]「鳥獣と人間との物語」(第 146~147 夜)

فلما كانت الليلة السادسة والاربعون بعد المائة
قالت بلغني ايها الملك السعيد انه كان في قديم الزمان و سالف
العصر والاولان...

そして第 146 夜になると

彼女は語った、私に(次のように)伝わっております、幸多き王さまよ、昔々はあるか遠い昔のこと……

[10]「聖者と鳩との物語」(第 147~第 148 夜)

وورد

...ان

また言い伝えられています

[11]「水禽とカメとの物語」(第 148 夜内)

زعموا ايها الملك ان...

彼ら(人々)は次のように述べました、王さまよ……

※行替えのみあり、段落替えなし・強調なし

[12]「狼と狐との物語」(第 148~150 夜)

اعلم

ايها الملك ان...

伝えられているところでは

王さまよ……

※以下の枝話 ([12a]「タカとウズラとの話」(第 149~150 夜)) には見出しなし

[13]「ネズミとイタチとの物語」(第 150 夜内)

و مما يحكي

...ان

さらに語り伝えられるところによると…

[14]「カラスと猫との物語」(第 150 夜内)

بلغني

...ان

私(=シャハラザード)に伝わっているところでは……

[15]「狐とカラスとの物語」(第 150~152 夜)

و حكي

...ان

また(次のように)語り伝えられました

[15a]「ノミとネズミとの話」(第 150~151 夜)

زعموا

...ان

彼ら(人々)は述べました

[=人々が言い伝えるところによりますと]

※狐の語った台詞

[15b]「タカと肉食鳥どもとの話」(第 151~152 夜)

فقال الغراب

...ان

するとカラスは言いました

彼ら(人々)は述べました[=人々が言い伝えるところによりますと]

※カラスの語った台詞

[15c]「スズメとワシとの話」(第 152 夜内)

فقال الغراب

بلغني

...ان

するとカラスは言いました

私(カラス)に伝わっているところによると

[16] 「ハリネズミとキジ鳩との物語」(第 152 夜内)

و يحكى

彼女(シャハラザード)は語りました
次のように語り伝えられております

[16a] 「商人とふたりの詐欺師との話」

بلغني

彼(キジ鳩)は語りました
私に伝わっているところによると……

[17] 「盗人と猿との物語」(第 152 夜内)

بلغني

彼女(シャハラザード)は語りました
私に伝わっているところによると……

[17a] 「愚かな織匠の話」(第 152 夜内)

بلغني

彼女(中身を見ないで布を買った男の妻)は語りました
私に伝わっているところによると……

[18] 「孔雀とスズメとの物語」(第 152 夜内) : 切れ目なし

[19] 「アリー・ビン・バツカールとシャムス・ウン・ナハールとの物語」(第 153~170 夜)

فقال الملك يا شهرزاد زبديني من هذا الحديث ... و ادرك
شهرزاد الصباح فسكتت عن الكلام المباح

فلما كانت الليلة الثالثة والخمسون بعد المائة

قالت بلغني أيها الملك السعيد كان في قديم الزمان و سالف
العصر والاولان...

王は言った、のおシャハラザードよ、こういった話をもっと私に語ってくれ[……]そこでシャハラザードは朝に気づき許されていた物語をやめた

そして第 153夜になると

彼女は語った、私に次のように伝わっております、幸多き王さまよ、昔々はるか遠い昔のこと……

[20] 「カマル・ウツ・ザマーンとの物語 (またはシャハリマーン王とその子カマル・ウツ・ザマーンとの物語)」(第 170~249 夜)

وليس هذا باعجب من حديث الملك شهرمان قال لها الملك
وكيف كان ذلك و ادرك شهرزاد الصباح فسكتت عن الكلام
المباح

قالت

...ان

قال

...ان

قالت

...ان

قالت

...ان

فلما كانت الليلة الموفية السبعين بعد المائة
قالت بلغني أيها الملك السعيد كان في قديم الزمان وسالف العصر
والاولان...

けれどこれもシャハリマーン王の話に比べたら不可思議ではありません、そこで王は言った、ではそれはどんなものか、そこでシャハラザードは朝に気づき許されていた物語をやめた

そして第 170夜になると

彼女は語った、私に次のように伝わっております、幸多き王さまよ、昔々はるか遠い昔のこと……

[20a] 「ニイマ・ビン・アル・ラビーとその女奴隷ヌウムとの物語」(第 237~247 夜)

حكاية نعمة بن الربيع و نعم جاريتة

قال بهرام

نييما・بين・アル・ラビーとその女奴隷
ヌウムとの物語

バハラームは語った

[21] 「アラーツ・ディーン・アブーツ・シャーマートの物語 (ほくろのアラディン物語)」(第 249~269 夜)

قالت ايها الملك ليست هذه الحكاية

حكاية علاء الدين

باعجب من حكاية علاء الدين ابي الشامات قال وما حكاية علاء
الدين ابي الشامات قالت بلغني أيها الملك السعيد انه كان في
قديم الزمان و سالف العصر والاولان...

そこで彼女は語った、王さま、この物語は

アラーツ・ディーンとの物語

アラーツ・ディーン・アブーツ・シャーマートの物語に比べたら不可思議ではありません、彼(王)は語った、アラーツ・ディーン・アブーツ・シャーマートの物語とはどのようであるか、彼女は語った、私に次のように伝わっております、幸多き王さまよ、昔々はるか遠い昔のこと……

※カルカッタ第二版の 262 夜から 278 夜までは、平凡社版では一夜ずつ夜の番号を下げています (261 夜が抜けて、260 夜のあと 262 夜に飛んでいるための不備を調整した結果)

[22] 「ハーティム・ウツ・ターイーの物語」(第 269~270 夜)

واما حكايات الكرام فانها كثيرة جدا منها ما روي

حكاية حاتم الطائي

عن كرم حاتم الطائي...

また寛容な人たちの物語はまことにたくさんありますが、そうしたなかに

ハーティム・ウツ・ターイーの物語

ハーティム・ウツ・ターイーの寛容さについて語られた(誰かが語った)ものがございます

[23] 「マアン・ブヌ・ザイーダの物語」(第 270~271 夜)

و من حكايات الكرام ايضا

حكاية معن بن زائدة

ما يروى عن معن بن زائدة...

そして寛容な人たちの物語の中にはまた

マアン・ブヌ・ザイーダの物語

(もがございます)マアン・ブヌ・ザイーダについて伝えられたところで

は

[24] 「マアン・ブヌ・ザイダと遊牧の民の物語」(第 271 夜内)
 وقيل ان معن بن زائدة...
 語られたところでは、マアン・ブヌ・ザイダは
 ※行替えなし、見出しなし (直接連続)

[25] 「ラブタイトの町の物語 (またはレプタの町の物語)」(第 271
 ~272 夜)
 و بلغني أيها الملك السعيدان
حكاية بلدة لبطيظ
 私に伝わっております、幸多き王さまよ、
 ラブタイトの町の物語(が)

[26] 「アブドル・マリクの御子ヒシャームと年若い牧人との物語」
 (第 272 夜内)
 ومما يحكى ايضا
حكاية هشام بن عبد الملك مع صبي العرب
 ...ان
 そしてさらにまた次のように伝えられております
 アブドル・マリクの御子ヒシャームと
 遊牧民の青年との物語

[27] 「アル・マハディーの子イブラーヒームの物語」(第 272~275
 夜)
 و من لطيف الحكايات
حكاية ابراهيم بن المهدي
 ...ان
 また魅力的な物語たちのなかには
 アル・マハディーの子イブラーヒームの物語
 (があります。それは……)

[28] 「アブドラー・ブヌ・アビー・キラーバの物語 (またはア
 ブドラー・ブヌ・アビー・キラーバと円柱の都イラムの物語)」
 (第 275~279 夜)
 وحكى
حكاية عبد الله بن ابي قلابة
 ...ان
 また語り伝えられております
 アブドラー・ブヌ・アビー・キラーバの物語
 (このように……)

[29] 「モスルのイスハークの話」(第 279~282 夜)
 ومما يحكى
حكاية اسحق الموصلي
 ...ان
 また語り伝えられているところでは
 モスルのイスハークの話

[30] 「屠殺場の掃除夫とある貴婦人との話」(第 282~285 夜)
 ومما يحكى
 また語り伝えられているところでは

[31] 「カリフ、ハールーン・アル・ラシードと、にせカリフ (または第
 二のカリフ) との物語」(第 285~294 夜)

حكاية الخليفة ما رون الرشيد كع الخليفة الثاني
 ومما يحكى ان...
 カリフ、ハールーン・アル・ラシードと
第二のカリフの物語
 また語り伝えられているところでは……

[32] 「ペルシア人アリーの物語」(第 294~296 夜)
 ومما يحكى
 ايضا ان...
 また語り伝えられているところでは
 さらにまた……

[33] 「カリフ、ハールーン・アル・ラシードと女奴隷、そしてアブー・
 ユースフ大師の物語 (またはイマーム・アブー・ユースフがどうしてカ
 リフ、ハールーン・アル・ラシードとその大臣ジャアファルとを窮地か
 ら救い出したかという物語)」(第 296~297 夜)
 ومما يحكى
 ...ان
 また語り伝えられているところでは

[34] 「ハーリド・イブン・アブドラー・アル・カスリーの物語 (また
 は恋人の名誉を救うため泥棒になりすました若者の物語)」(第 297~299
 夜)
حكاية خالد بن عبد الله القشيري
 مما يحكى
 ...ان
 ハーリド・イブン・アブドラー・アル・
 カシュイリーの物語
 また語り伝えられているところでは

[35] 「バルマク家のジャアファルの寛仁さとそら豆売りの物語」(第 299
 夜内)
 ومما يحكى
حكاية كرم جعفر البرمكي مع بائع الفول
 ...ان
 また語り伝えられているところでは
 バルマク家のジャアファルの寛仁さと
 そら豆売りの物語

[36] 「ものぐさのアブー・ムハンマドの話」(第 299~305 夜)
 ومما يحكى
 ...ان
 また語り伝えられているところでは

[37] 「バルマク家のヤフヤー・ブヌ・ハーリドの度量の広い物語」(第
 305~306 夜)
 ومما يحكى
 ...ان
 また語り伝えられているところでは

[38]「ヤフヤー・ブヌ・ハーリドが自分の偽手紙を書いた男に度量を示した話」(第 306~307 夜)

ومما يحكى

...ان

また語り伝えられているところでは

[39]「カリフ、アルマームーンと異国の学者との物語」(第 307~308 夜)

وروي

...ان

また伝えられているのは

[40]「アリー・シャルとズムツルドとの物語」(第 308~327 夜)

وحكي

...انه

また語り伝えられてきたのは

[41]「ジュバイル・ブヌ・ウマイルとブドゥールとの恋物語」(第 327~334 夜)

ومما يحكى

...ان

また語り伝えられているところでは

[42]「ヤマンのそれがしと六人の女奴隷の物語(またはカリフ、アル・マームーンの御前でバスラのムハンマドの物語った六人の女奴隷の品定めの話)」(第 334~338 夜)

ومما يحكى

...ان

また語り伝えられているところでは

[43]「ハールーン・アル・ラシードとある女奴隷とアブー・ヌワースとの物語」(第 338~340 夜)

ومما يحكى

...ان

また語り伝えられているところでは

[44]「犬の食べ残しを食べ、それがはいっていた黄金のさらを盗み取った男の物語」(第 340~341 夜)

ومما يحكى

...ان

また語り伝えられているところでは

[45]「アレクサンドリアの詐欺師と警察長官との話」(第 341~342 夜)

ومما يحكى

...ان

また語り伝えられているところでは

[46]「アル・マリク・ウン・ナーシルと三人の警察長官の物語」(第 342~344 夜)

ومما يحكى

...ان

また語り伝えられているところでは

※以下の枝話 ([46a]カイロの警察長官の話・[46b]ブーラークの警察長官の話・[46c]古カイロの警察長官の話) には見出しなし

[47]「盗人と両替商との物語」(第 344~345 夜)

ومما يحكى

...ان

また語り伝えられているところでは

[48]「クースの警察長官といかさま師との物語」(第 345~346 夜)

ومما يحكى

...ان

また語り伝えられているところでは

[49]「イブラーヒーム・イブヌル・マハディーとある商人との物語」(第 346~347 夜)

ومما يحكى

...ان

また語り伝えられているところでは

[50]「貧者に施しをして両手を国王のため斬られた女の話」(第 347~348 夜)

ومما يحكى

...ان

また語り伝えられているところでは

[51]「信心家のイスラエルびとの話」(第 348~349 夜)

ومما يحكى

...ان

また語り伝えられているところでは

[52]「アブー・ハッサーン・ウッ・ズィヤーディーとホラサーンの男との話」(第 349~351 夜)

ومما يحكى

انا ابا حسان الزيايدي قال...

また語り伝えられているところでは

わたくし——とアブー・ハッサーン・ウッ・ズィヤーディーは語った——は……

[53]「困った時の友は真の友という話」(第 351 夜内)

ومما يحكى

...ان

また語り伝えられているところでは

[54]「貧乏してのち、また金持ちとなった富人の話(または運命に背かれ極貧となった富人の話)」(第 351~352 夜)

ومما يحكى

...ان

また語り伝えられているところでは

[55]「カリフ、アル・ムタワッキルと女奴隷マハブーバとの物語」(第 352~353 夜)

ومما يحكى

...انه

また語り伝えられているところでは

[56]「屠殺人ワルダーンと美女と熊との物語」(第 353~第 355 夜)

ومما يحكى

...ان

また語り伝えられているところでは

[57]「王女と猿との物語」(第 355~357 夜)

ومما يحكى

ايضا انه...

また語り伝えられているところでは

さらにまた……

[58]「黒檀の馬の物語」(第 357~371 夜)

ومما يحكى

...ان

また語り伝えられているところでは

[59]「ウンス・ル・ジュードとアル・ワルド・フィール・アクマームとの物語」(第 371~381 夜)

ومما يحكى

ايضا انه...

また語り伝えられているところでは

さらにまた……

[60]「アブー・ヌワースと三人の若衆とカリフとの物語」(第 381~383 夜)

ومما يحكى

...ان

また語り伝えられているところでは

[61]「アブドッラー・ブヌ・マアマルとバスラ男とその女奴隷との話」(第 383 夜内)

ومما يحكى

...ان

また語り伝えられているところでは

[62]「ウドラ族の恋人たちの話」(第 383~384 夜)

ومما يحكى

...انه

また語り伝えられているところでは

[63]「ヤマンの大臣とその弟君との話 (またはヤマンの大臣バドル・ウツ・ディーンとその弟、および弟の師匠の話)」(第 384 夜内)

ومما يحكى

ايضا ان...

また語り伝えられているところでは

さらにまた……

[64]「書塾での少年と少女との恋の話」(第 384~385 夜)

ومما يحكى

...ان

また語り伝えられているところでは

[65]「アル・ムタラムミスとその妻との話」(第 385 夜内)

ومما يحكى

...ان

また語り伝えられているところでは

[66]「カリフ、ハールーン・アル・ラシードと泉水の中のズバイダ正妃との話」(第 385~386 夜)

ومما يحكى

...ان

また語り伝えられているところでは

[67]「ハールーン・アル・ラシードと三人の詩人との話」(第 386 夜内)

ومما يحكى

...ان

また語り伝えられているところでは

[68]「アッ・ズバイルの子ムスアブとタルハの娘アーイシャとの話」(第 386~387 夜)

ومما يحكى

...ان

また語り伝えられているところでは

[69]「アブル・アスワドがその女奴隷を歌った話」(第 387 夜内)

و بلغني

...ان

また私に伝わっております

[70]「ハールーン・アル・ラシードと二人の女奴隷との話」(第 387 夜内)

ومما يحكى

...ان

また語り伝えられているところでは

[71]「ハールーン・アル・ラシードと三人の女奴隷との話」(第 387 夜内)

وحكي

ايضا ان...

また語り伝えられてきたのは

さらにまた……

[72]「粉屋とその妻との話」(第 387~388 夜)

ومما يحكى

...ان

また語り伝えられているところでは

[73] 「うつけ者と詐欺師との話」(第 388 夜内)

ومما يحكى

...ان

また語り伝えられているところでは

[74] 「カリフ、ハールーン・アル・ラシードとズバイダ正妃との話 (または法官アブー・ユースフとズバイダ正妃との話)」(第 388 ~389 夜)

ومما يحكى

...ان

また語り伝えられているところでは

[75] 「カリフ、アル・ハーキムとある商人との話」(第 389 夜内)

ومما يحكى

...ان

また語り伝えられているところでは

[76] 「クスラー (ホスロー) ・アヌーシルワーン王と農家の娘との話」(第 389~390 夜)

ومما يحكى

...ان

また語り伝えられているところでは

[77] 「水運びの男と金細工師の妻との話」(第 390~391 夜)

ومما يحكى

...ان

また語り伝えられているところでは

[78] 「ホスロー大王とシーリーンと漁師との話」(第 391 夜内)

ومما يحكى

...ان

また語り伝えられているところでは

[79] 「バルマク家のヤフヤー・ブヌ・ハーリドと貧乏男との話」(第 391~392 夜)

ومما يحكى

...ان

また語り伝えられているところでは

[80] 「ムハンマド・アル・アミーンとシャアファル・ブヌ・ムーサー・アル・ハーディとの話」(第 392 夜内)

ومما يحكى

...ان

また語り伝えられているところでは

[81] 「サーイド・ブヌ・サーリム・アル・バーヒリーとバルマク家の御曹子たちの話」(第 392~393 夜)

ومما يحكى

...ان

また語り伝えられているところでは

[82] 「まんまと夫を騙した女の話」(第 393~394 夜)

ومما يحكى

...ان

また語り伝えられているところでは

[83] 「信仰篤いイスラエルの女と邪悪な二老人との話」(第 394 夜内)

ومما يحكى

...انه

また語り伝えられているところでは

[84] 「カリフ、ハールーン・アル・ラシードとジャアファルと遊牧の老人との話」(第 394~395 夜)

ومما يحكى

...ان

また語り伝えられているところでは

[85] 「オマル・ブヌル・ハッターブと若い牧人との話」(第 395~397 夜)

وحكى

...الشرىف حسين بن ريان ان

また〔次のように〕語った

かのシャリーフ、フサイン・ブヌ・ライヤーンが

〔=また、かのシャリーフが語ったところによると〕

[86] 「カリフ、アルマームーンとピラミッドとの話」(第 397~398 夜)

ومما يحكى

...ان

また語り伝えられているところでは

[87] 「盗人と商人との話」(第 398~399 夜)

ومما يحكى

...ان

また語り伝えられているところでは

[88] 「マスルールとイブヌル・カーリビーとの話 (またはカリフ、ハールーン・アル・ラシードとイブヌル・カーリビー)」(第 399~401 夜)

ومما يحكى

...ان

また語り伝えられているところでは

[89] 「カリフ、ハールーン・アル・ラシードと苦行修行のその御子との話」(第 401~402 夜)

ومما يحكى

...ان

また語り伝えられているところでは

[90] 「歌を聞いて恋をした書塾の教師の話」(第 402~403 夜)

ومما يحكى

...ان

また語り伝えられているところでは

[91] 「愚かな教師の話 (第 403 夜内)」

ومما يحكى

また語り伝えられているところでは

[92] 「読み書きを知らぬ教師の話」(第 403~404 夜)

وحكى ايضا

...ان

さらにまた語り伝えられてきたのは

[93] 「ある国王と操正しい女との話」(第 404 夜内)

وحكى

...ان

また語り伝えられてきたのは

[94] 「アブドル・ラフマーン・アル・マグリビーが語った巨鳥ルフの話」(第 404~405 夜)

ومما يحكى

...ان

また語り伝えられているところでは

[95] 「アディー・ブヌ・ザイドとアン・ヌウマーン王の娘ヒンドとの話」(第 405~407 夜)

ومما يحكى

...ان

また語り伝えられているところでは

[96] 「ディビル・アル・フザーイーと女人ムスリム・ブヌル・ワリードとの話」(第 407 夜内)

ومما يحكى

...ان

また語り伝えられているところでは

[97] 「モスルのイスハークと商人との話」(第 407~409 夜)

ومما يحكى

...ان

また語り伝えられているところでは

[98] 「三人の薄幸な恋人たちの話(または、老いた牧人の語った恋の話)」(第 409~410 夜)

ومما يحكى

...ان

また語り伝えられているところでは

[99] 「タイイー部族の恋人たちの話(または、カーシム・ブヌ・アディの伝えたある恋物語)」(第 410~411 夜)

ومما يحكى

...ان

また語り伝えられているところでは

[100] 「恋に気の狂った男の話(または、アブル・アッパース・アル・ムバルラドが伝えた恋の物語)」(第 411~412 夜)

ومما يحكى

...ان

また語り伝えられているところでは

[101] 「イスラムに改宗した修道院長の話(または、アブー・バクル・ブヌ・ムハマンド・アル・アンバーリーが語ったアブドル・マシーフ・アル・ラーヒブの物語)」(第 412~414 夜)

ومما يحكى

...ان

また語り伝えられているところでは

[102] 「アブー・イーサーと女奴隷クルラトル・アインの恋物語」(第 414~418 夜)

ومما يحكى

...ان

また語り伝えられているところでは

[103] 「アル・アミンとその叔父イブラーヒーム・イブヌル・マハディーとの話」(第 418~419 夜)

ومما يحكى

...ان

また語り伝えられているところでは

[104] 「カリフ、アル・ムタワッキルとアル・ファトフ・ブヌ・ハーカーンとの話」(第 419 夜内)

ومما يحكى

...ان

また語り伝えられているところでは

[105] 「美男と美女との優劣についてある女流学者が論争した話(またはハマールの町の女説教師の話)」(第 419~423 夜)

ومما يحكى

...ان

また語り伝えられているところでは

[106] 「アブー・スワイドときれいな老女との話」(第 423~424 夜)

ومما يحكى

...ان

また語り伝えられているところでは

[107] 「アリー・ブヌ・ムハンマド・ブヌ・アブドラー・ブヌ・ターヒルと女奴隷ムーニスとの話」(第 424 夜内)

ومما يحكى

...ان

また語り伝えられているところでは

[108] 「二人の女とその恋人たちとの話」(第 424 夜内)

وقال

ابوالعیناء...

また物語ったところでは

アブー・アイナーが。……

[109] 「カイロの商人アリーの物語(またはバグダードの妖怪屋敷)」(第 424~434 夜)

ومما يحكى

... انه
また語り伝えられているところでは

[110] 「メッカ巡礼の男と老女との話」(第 434~436 夜)

ومما يحكى

... ان
また語り伝えられているところでは

[111] 「奴隸タワッドウドの物語」(第 436~462 夜)

ومما يحكى

... انه
また語り伝えられているところでは

[112] 「死の天使とたかぶる王者と篤信家との話」(第 462 夜)

ومما يحكى

ايها الملك السعيد انه...

また語り伝えられているところでは

幸多き王よ

[113] 「死の天使と富める王者との話」(第 462 夜~463 夜)

وحكى

... ان

また語り伝えられてきたのは

[114] 「死の天使とイスラエルの民の王との話」(第 463~464 夜)

ومما يحكى

... ان

また語り伝えられているところでは

[115] 「イスカンダル・ドウル・カルナインと貧しい民との話(またはイスカンダル・ドウル・カルナインと貧に甘んじている王者との話)」(第 464 夜内)

ومما يحكى

... ان

また語り伝えられているところでは

[116] 「アヌーシルワーンがその統治に対し正義を旨とした話」(第 464~465 夜)

ومما يحكى

... ان

また語り伝えられているところでは

[117] 「イスラエルの子孫たちの法官と信心深いその妻との話」(第 465~466 夜)

ومما يحكى

... انه

また語り伝えられているところでは

[118] 「乗船が難破した婦人の話(またはカアバの側の信心深い女人と預言者の子孫のひとりとの話)」(第 466~467 夜)

ومما يحكى

... ان

また語り伝えられているところでは

[119] 「信心深い黒人奴隸の話」(第 467~468 夜)

ومما يحكى

... ان

また語り伝えられているところでは

[120] 「イスラエルの子らのうちのある信心深い男の話(または敬神家の木皿造り師とその妻との話)」(第 468~470 夜)

ومما يحكى

... انه

また語り伝えられているところでは

[121] 「ハッジャー・ブヌ・ユースフと信心深い男との話」(第 470~471 夜)

ومما يحكى

... ان

また語り伝えられているところでは

[122] 「中に手を入れてもやけどせぬ敬神の鍛冶屋の話」(第 471~473 夜)

وحكى

... ان

また語り伝えられてきたのは

[123] 「神が雲を駆使する力を授けたもうたある敬神家の話」(第 473~474 夜)

وحكى

... ان

また語り伝えられてきたのは

[124] 「カリフ、オマル・ブヌル・ハッターブのある教友の話(またはあるムスリムの戦士とクリスチャンの娘との話)」(第 474~477 夜)

وحكى

... ان

また語り伝えられてきたのは

[125] 「イブラーヒーム・イブヌル・ハッワースとある王女との話(またはクリスチャンの王女とあるムスリムとの話)」(第 477~478 夜)

ومما يحكى

... ان

また語り伝えられているところでは

[126] 「ある預言者と神の正義についての話」(第 478~479 夜)

وحكى

... ان

また語り伝えられてきたのは

[127] 「ナイルの渡し守とある聖者との話」(第 479 夜内)

ومما يحكى

... ان

また語り伝えられているところでは

[128] 「ある島の王となった敬神家のイスラエル人の話」(第 479～481 夜)

ومما يحكى

...ان

また語り伝えられているところでは

[129] 「アブル・ハサン・アッ・ダルラージュと癩を病むアブー・ジャアファルとの物語」(第 481～482 夜)

ومما يحكى

...ان

また語り伝えられているところでは

[130] 「^{くちなわ}蛇の女王の物語 (またはハーシブ・カリーム・ウッ・ディーンの物語)」(第 482～536 夜)

ومما يحكى

...انه

また語り伝えられているところでは

※以下の枝話 ([130a] 「ブルーキーヤーの話」(第 486～498 [・531] 夜) ・ [130aa] 「ジャー・ジャーの話」(第 499～531 夜)) には見出しなし

[131] 「海のシンドバードと陸のシンドバードとの物語」(第 536～566 夜)

...شعرزاد بنت الوزير من الليالي بعد الخمسمائة ستا وثلاثون
و كمرت حكاية حاسب كريم الدين قالت و ايس هذا باعجب من
حكاية السندباد قال و كيف ذلك

قالت بلغني

...انه

[.....]大臣の娘シャハラザードは536夜にハーシブ・カリーム・ウッ・ディーンの物語を終えて、言った、これはシンドバードの物語に比べたら不可思議ではありません、彼(王)は言った、それはどんなふうじや

彼女は語った、私に伝わっているところでは

[131a] 「海のシンドバードの第一航海の話」(第 538～542 夜)

الحكاية الاولى

第一の物語

[131b] 「海のシンドバードの第二航海の話」(第 542～546 夜)

حكاية السفرة الثانية

第二の旅の物語

[131c] 「海のシンドバードの第三航海の話」(第 546～550 夜)

حكاية السفرة الثالثة

第三の旅の物語

[131d] 「海のシンドバードの第四航海の話」(第 550～556 夜)

الحكاية الرابعة

第四の物語

[131e] 「海のシンドバードの第五航海の話」(第 556～559 夜)

الحكاية الخامسة

第五の物語

[131f] 「海のシンドバードの第六航海の話」(第 559～563 夜)

السفرة السادسة

第六の旅

[131g] 「海のシンドバードの第七航海の話」(第 563～566 夜)

حكاية السفرة السابعة

第七の旅の物語

[132] 「黄銅城の物語」(第 566～578 夜)

وبلغني ايضا

...انه

さらにまた私に伝わっているところでは

[133] 「女たちのずるさとたくらみの物語 (または七人の大臣たちの物語)」(第 578～606 夜)

وقد بلغنا ايضا

...انه

さらにまた私どもにすでに伝わっているところでは

[133a] 「ある国王とその大臣の妻との話」(第 578～579 夜)

فقال و هل بلغك شئ من كيد هن ايها الوزير قال نعم

بلغني ايضا الملك

...لنه

すると彼(王)は、彼女たち(妻たち、女性たち)の悪巧みについて何かお前に伝わった(お前は聞き及んだ)ことがあるか、大臣よ、彼(大臣)は言った、はい、

私(大臣)に伝わっているところでは

さらにまた、王さま

[133b] 「ある商人とおうむとの話」(第 579 夜内)

وبلغني ايها الملك ايضا

...انه

さらに私に伝わっているところでは

また、王さまよ

※私=大臣と推察される

[133c] 「洗い張りやとその息子との話」(第 579～580 夜)

فقد بلغني

...انه

また私にすでに伝わっているところでは

※「私」＝女奴隷と推察される

[133d] 「道楽ものと貞節な妻女との話」(第 580 夜内)

قالت

وكذلك بلغني

من كيد الرجال ان...

彼女(女奴隷)は語った、

また同様に私に伝わっているところでは

男たちの悪巧みについてですが、

[133e] 「けちな男と二塊のパンの話」(第 580~581 夜)

قال بلغني ايها الملك

انه...

彼(第二の大臣)は語った、私に

伝わっているところでは、王さまよ

[133f] 「女とその二人の情人との話」(第 581 夜内)

وبلغني ايها الملك من كيد النساء

ان...

さらに女たちの悪巧みについて私に

伝わっているところでは、王さまよ

※「私」＝第二の大臣と推察される

[133g] 「ある王子とグーラ(鬼女)との話」(第 581~582

夜)

قالت بلغني ايها الملك السعيد ذو الرأي الرشيد

ان...

彼女(女奴隷)は語った、私に伝わって

いるところでは、幸多く正しい分別の

持ち主である王さまよ

[133h] 「一滴の蜂蜜の話」(第 582 夜内)

بلغني ان اهل قريتين افنوا بعضهم على قطرة
عسل فقال له الملك و كيف ذلك فقال اعلم ايها الملك

انه بلغني

ان...

私(第三の大臣)に伝わっているところでは、二つの村の住
民たちが一滴の蜂蜜のためにお互い殺しあったのです、す
るとそれに対し王は言った、それはどういうことだ、すると彼
は言った、王さまお知りおきください

私(第三の大臣)に伝わっているところでは

[133i] 「おのが亭主に土砂を篩ふるいいわけさせた女の話」(第
582 夜内)

وقد بلغني ايها الملك من جملة كيد النساء

ان...

さらに女たちのあまたの悪巧みについて

すでに私(第三の大臣)に伝わっている

ところでは、王さまよ

[133j] 「魔法の泉の話」(第 582~584 夜)

فقلت له الجارية

بلغني ايها الملك

انه...

すると女奴隷は彼(王)に語った

私に伝わっているところでは、王さまよ

[133k] 「浴場主とその妻の話」(第 584 夜内)

فقال له الوزير

بلغني ايها الملك

ان...

すると大臣は彼(王)に語った

私に伝わっているところでは、王さまよ

※「大臣」・「私」＝第四の大臣と推察される

[133l] 「美女と放蕩者の話」(第 584~586 夜)

وبلغني ايضا

ايها الملك من كيد النساء حكاية اخرى قال له الملك
و ما بلغك فقال له بلغني ايها الملك ان...

さらにまた私に伝わっているところでは

王さまよ女たちの悪巧みについて別の物語があります、それに
対し王は言った、何がお前に伝わっているのだ、すると彼は王
に言った、王さまよ私に伝わっているところでは……

※「私」＝第四の大臣と推察される

[133m] 「金細工師と絵に描かれた乙女の話」(第 586~587 夜)

اما سمعت ايها الملك حديث الصائغ مع الجارية فقال
لها الملك ماجري منهما يا جارية فقلت له

بلغني ايها الملك السعيد

انه...

ところで王さま、金細工師と女奴隷との話をお聞きになったことは
ありませんか、すると王は彼女に言った、何がその二人に起こっ
たのか女奴隷よ、すると彼女(女奴隷)は彼(王)に語った

私(女奴隷)に伝わっているところ

では、幸多き王さまよ

[133n] 「一生涯笑わなかった男の話」(第 587~591 夜)

واخاف عليك ان تندم ندامة الرجل الذي لم يضحك بقية عمره
فقال له الملك و كيف ذلك ايها الوزير قال

بلغني ايها الملك

انه...

私はあなた(王さま)が生涯一度も笑わなかった男のした後悔と
同じ後悔をするのを恐れているのです、すると彼に王は言った、
それはどんなことだ大臣よ、彼(大臣)は語った

私に伝わっているところでは、王さまよ

※「私」＝第五の大臣と推察される

[133o] 「ある王子と商人の妻の話」(第 591～592 夜)

فقلت

بلغني ايها الملك السعيد

...انه

すると彼女(女奴隷)は語った

私(女奴隷)に伝わっている
ところでは、幸多き王さまよ

[133p] 「買われた奴隷と優雅な男の妻の話」(第 592～593

夜)

و بلغني ايضا ايها الملك

...ان

さらにまた私(女奴隷)に伝わって
いるところでは、王さまよ

[133q] 「国の高官らを手玉にとった女の話」(第 593～596

夜)

فقال الوزير

بلغني ايها الملك

...ان

すると大臣は語った

私(第六の大臣)に伝わっている
ところでは、王さまよ

[133r] 「聖断の夜に三つの願いをかけた男の話」(第 596
夜内)

وقد بلغني ايضا

...انه

さらにまた、すでに私に伝わって
いるところでは、

※「私」＝第六の大臣と推察される

[133s] 「風呂番女を懲らしめて後悔した王の話」(第 596
～597 夜)

فتندم كل الندم كما ندم الملك على عذاب حارسة الحمام
فقال لها الملك و كيف كان ذلك فقالت له الجارية

بلغني ايها الملك

...ان

そしてあとであなたさま(王)は浴場の女見張り番を懲らし
めたことで後悔した王の後悔と同じ後悔をするでしょう、す
ると王は彼女に言った、それはどんなことか、そこで女奴隷
は彼に語った

私(女奴隷)に伝わっている
ところでは、王さまよ

[133t] 「雌雄二羽のハトの話」(第 597 夜内)

و بلغني ايضا

ايها الملك من كيد الرجال ان...

さらにまた私(女奴隷)に
伝わっているところでは

王さまよ、男たちの悪巧みについてですが

[133u] 「アッダトマー姫とペルシア王子の話」(第 597～598 夜)

و بلغني ايضا

من كيد الرجال النساء حكاية اعجب من هؤلاء كاهم
فقال لها الملك هات مامعك فقالت ايها الملك ان...

さらにまた私(女奴隷)に
伝わっているところでは

女に対する男たちの悪巧みについてこれまでの物語たちよりも
一層不可思議な物語があります、すると王さまは彼女に向かって、
お前の聞いたところを話すように言った、そこで彼女は語った、
王さまよ

[133v] 「老婆と商人の息子の話」(第 598～602 夜)

و قد بلغني من ذلك حديث العجوز و ولد التاجر فقال له ال
ملك و كيف كان ذلك يا وزير فقال له الوزير

بلغني ايها الملك

...ان

すでにそうしたもののなかでも老婆と商人の息子の話が私に伝
わっております、すると彼に向かって王は、大臣よそれはどんな
ものかと言った

私(第七の大臣)に伝わっている
ところでは、王さま

[133w] 「散策に出たある王子と魔物の話」(第 602～603 夜)

ثم قال الوزير

فقد بلغني ايضا

ايها الملك ان...

すると大臣は語った

また私(第七の大臣)にすでに
伝わっているところでは

王さまよ

[133x] 「盲目の老人と三歳と五歳の少年の話」(第 603～606 夜)

فقال لهم ابن الملك

بلغني

...انه

そこで彼らに向かって王子は語った

私(王子)に伝わっているところでは

※平凡社東洋文庫では見出しにっていない(第 605 夜)

ثم قال ابن الملك و اما ابن الخمس سنين فانه

بلغني ايها الملك

...ان

そこで王子は五歳の息子について語った

私(王子)に伝わっているところでは、王さまよ

[134]「商人ウマルと三人の息子、サーリムとサーリムとジャウダルの物語」(第 606~624 夜)

و هذا آخر ما انتهى اليها من قصة الملك وولده والجارية والوزراء السبعة

وبلغني ايضا

...ان

これがある王と王子と女奴隷と七人の大臣の物語として 私たちに伝わっているものの終わりです

さらにまた私(シャハラザード)に
伝わっているところでは

[135]「クンダミルの王子のアジブとガリーブの物語」(第 624~680 夜)

و هذا ما انتهى اليها من حكاية جودر بالتمام والكمال

وبلغني ايضا

...انه

これがジャウダルの物語として 私たちに伝わっているものの一部始終です

さらにまた私に伝わっているところでは

[136]「アブド・アッラーフ・ブヌ・アマアル・アルカイシーとオトバ・ブヌ・アルジュッバーンの物語」(第 680~681 夜)

وحكى ايضا

...ان

さらにまた語り伝えられているのは

[137]「アンヌアマーンの娘ヒンドとアルハッジャージュの物語」(第 681~683 夜)

وحكى ايضا

...ان

さらにまた語り伝えられているのは

[138]「フザイマ・ブヌ・ビシュルとイクリマ・アルファイヤードの物語」(第 683~684 夜)

[※物語の開始が夜の切れ目と一致]

فلما كانت الليلة الثالثة والثمانون بعد السيمانة

قالت بلغني أيها الملك السعيد ان...

そして第 683 夜になると

彼女は語った、私に次のように伝わっております、幸多き王さまよ

[139]「書記ユースと世継アルワリード・ブヌ・サフルの物語」(第 684~685 夜)

وحكى

...ايضا انه

さらに語り伝えられてきたのは

また

[140]「ハールーン・アッラシードと娘たちの物語」(第 685~686 夜)

وحكى ايضا

...ان

さらにまた語り伝えられてきたのは

[141]「ハールーン・アッラシードのご前で、三人の娘についてのアルアスマイヤーの物語」(第 686~687 夜)

وحكى ايضا

...ان

さらにまた語り伝えられてきたのは

[142]「アブー・イスハーク・イブラーヒーム・アルマウシリーと悪魔アブー・ムッラの物語」(第 687~688 夜)

وحكى ايضا

...ان

さらにまた語り伝えられてきたのは

[143]「カリフ、ハールーン・アッラシードとジャミール・ブヌ・アマアル・アルウズリーの物語」(第 688~691 夜) [“ウドラ族の恋人たち”]

وحكى ايضا

...ان

さらにまた語り伝えられてきたのは

[144]「ベドウィンがムアーウィアに訴えたマルワーン・ブヌ・アルハカムの悪業の物語」(第 691~693 夜) [“ベドウィンとその忠実な妻”]

وحكى ايضا

أيها الملك السعيد ان...

さらにまた語り伝えられてきたのは

幸多き王さま

[145]「フサイン・アルハリーウがハールーン・アッラシードのご前でしたバスラの女の恋物語 [“バスラの恋人たち”]」(第 693~695 夜)

وحكى ايضا

أيها الملك السعيد ان...

さらにまた語り伝えられてきたのは

幸多き王さま

[146]「イスハーク・アルマウシリーと奴隷娘と盲人(悪魔)の物語」(第 695~696 夜)

وحكى ايضا

أيها الملك ان...

さらにまた語り伝えられてきたのは

王さま

[147]「イブラーヒーム・ブヌ・イスハークと若者の物語」(第 696~697 夜) [“メディナの恋人たち”]

وحكى ايضا

...ان

さらにまた語り伝えられてきたのは

[148]「大臣アブー・アーミル・ブヌ・マルワーンとアルマリク・アンナースィルの物語」(第 697~698 夜)

وحكى ايضا

أيها الملك السعيد ان...

さらにまた語り伝えられてきたのは

幸多き王さま

[149]「アフマド・アッダナフとハサン・シャウマーンと女ペテン師ザイナブおよびその母の物語」(第 698~708 夜)

وحكى ايضا

ايها الملك السعيد انه...

さらにまた語り伝えられてきたのは

幸多き王さま

[150]「エジプト人アリー・アッザイバク」(第 708~719 夜)
※まったく切れ目なし (ほかの物語の切れ目に使われている、物語導入の定型句もない)

[151]「アッサイフ・アルアザム・シャーの王子アズダシールとアブド・アルカーディル王の息女ハヤート・アンヌフース姫の恋物語」(第 719~738 夜)

ومما يحكى ايضا

ايها الملك السعيد انه...

さらにまた語り伝えられているところでは

幸多き王よ

[152]「ホラサーンのシャフルマーン王の物語」(第 738~756 夜) [“海のジュルナル”]

ومما يحكى

ايها الملك السعيد انه...

さらにまた語り伝えられているところでは

幸多き王よ

[153]「ムハンマド・サバーイク王と商人ハサンの物語」(第 756 夜~758 夜)

ومما يحكى

ايها الملك السعيد انه...

また語り伝えられているところでは

幸多き王よ……

※枝話のかたちになっている [153a]「サイフ・アルムルークとバディーア・アルジャマールの物語」(第 758~778 夜?) への接続: 切れ目なし

[154]「商人と金細工師と銅細工師を営むふたりの息子、および金細工師の息子ハサンとペルシアの詐欺師にまつわる物語」(第 778~831 夜) [“バスのハサン”]

ومما يحكى ايضا

انه...

さらにまた語り伝えられているところでは

[155]「バグダードの漁師ハリーフアの物語」(第 831 夜~845 夜)

ومما يحكى ايضا

انه...

さらにまた語り伝えられているところでは

[156]「商人マスルールと彼が見た夢の物語」(第 845~863 夜) [“マスルールとザイン・エル・マワーシフ”]

ومما يحكى

انه...

また語り伝えられているところでは

[157]「ヌール・アッディーンと帯網娘マルヤムの物語」(第 863~894 夜)

ومما يحكى

انه...

また語り伝えられているところでは

[158]「カイロの領主ジャーウ・アッディーン・ムハンマドと褐色の男の物語」(第 894~896 夜) [“上エジプトから来た男”]

ومما يحكى ايضا

انه...

さらにまた語り伝えられているところでは

[159]「バグダードの金持ちと奴隷娘の物語」(第 896~899 夜)

ومما يحكى ايضا

انه...

さらにまた語り伝えられているところでは

[160]「インドの王ジュライアードと大臣シャンマースの物語」(第 899~930 夜)

ومما يحكى ايضا

انه...

さらにまた語り伝えられているところでは

※以下枝話の切れ目なし (見出しを立てずに文が続く)

[160a]「猫と鼠の物語」(第 900~902 夜)

فقال الملك وما حكاية السنور والفأر . فقال المفسر...

すると王は、猫とねずみの話とはなにか、と言いました。そこで夢解き人が語り始めました

[160b]「頭にバターをかけられた行者の話」(第 902~903 夜)

فقال له الملك و كيف حكاية الناسك وما جرى له . فقال

له ايها الملك انه...

すると彼(大臣シャンマース)に向かって王は世捨て人と彼に起こったことの物語とはどんな風かと言った。すると彼(大臣)は次のように語った、王さまよ……

[160c]「池の魚の話」(第 903 夜内)

فقال الملك و ما حكاية السمك وكيف ذلك فقال شماس

اعلم ايها الملك انه...

すると王は言った、魚の物語とはなにか、それはどんな風か、するとシャンマースは言った、お知りおきください、王よ

※文の切れ目も入れていない

[160d]「鴉と蛇の話」(第 903~904 夜)

فقال الملك كيف ذلك وما حكاية الغراب والحية . فقال

الوزير اعلم ايها الملك انه...

すると王は言った、それはどんな風か、カラスと蛇の物語とはなにか。すると大臣は言った、お知りおきください、

[160e] 「野生のロバと狐の話」(第 904~905 夜)
قال الملك وما حديثهما . قال الوزير اعلم ايها الملك
ان...

すると王は言った、両者の話とはなにか。すると大臣は言った、お知りおきください、王よ

[160f] 「旅をする王子の話」(第 905~906 夜)
فقال الملك وكيف كان ذلك . فقال الوزير اعلم ايها الملك انه..

すると王は言った、それはどんな風か。すると大臣は言った、お知りおきください、王よ

[160g] 「鴉の話」(第 906~907 夜)
فقال الملك وما حكاية الغراب فاجابه الوزير قائلا .
اعلم ايها الملك السعيد انه...

すると王は言った、カラスの物語とはなにか、すると大臣は彼に答えてこう言った。お知りおきください、幸多き王よ

[160h] 「蛇使いとその妻と子供と一家の者の話」(第 907~908 夜)

قال الملك وما حكاية الحاوي واولاده وزوجته
و اهل بيته . فقال الوزير اعلم ايها الملك انه...

すると王は言った、蛇使いとその子とその妻とその家の者たちの物語とはどんな風か。すると大臣(六番目の大臣)は言った お知りおきください、王よ

[160i] 「蜘蛛と風の話」(第 908~909 夜)
الملك لما قال الوزير و ما حكاية العنكبوت والريح . ف
ال الوزير اعلم ايها الملك ان...

すると王は大臣が言ったことに対して言った、蜘蛛と風の物語とはなにか。大臣は言った、お知りおきください、王よ

[160j] 「公正な王と邪悪な王の話」(第 909~910 夜)
قال الغلام انه...

少年(王子)は語った

[160k] 「盲人と両足の萎えた男の話」(第 910~918 夜)
وذلك مثل الاعمى والمقعذ الذين اخذهما رجل صاحب
البستان و ادخاهما بسيانه...

(王子のせりふ)それはちょうど果樹園の持ち主がつかまえて、その果樹園のなかに入れた[.....]盲人と足なえの男のようです

※全く(話者の交代、物語導入の言葉など)切れ目なし

[160l] 「漁夫の話」(第 918 夜内)
فقال له الملك وكيف كان ذلك . قال شماس قد
بلغني ان...

すると彼に向かって王は、それはどんな風なのだと聞いた。シャンマースは語った、すでに私に伝わっていると

[160m] 「若者と泥棒の話」(第 918~919 夜)
فقال الملك وكيف كان ذلك . فقالت ذكروا ان...
すると王は、それはどんな風なのだと聞いた。すると彼女(愛妾)は語った、彼ら(人々)が述べたところでは

[160n] 「妻のために身を亡ぼした男の話」(第 919~920 夜)
فقال الملك وكيف كان ذلك . قال شماس زعموا ان...
すると王は、それはどんな風なのだと聞いた。シャンマースは語った、彼ら(人々)が申したところでは

[160o] 「商人と泥棒たちの話」(第 920~921 夜)
فقال الملك وكيف كان ذلك . قالت بلغني انه...
すると王は、それはどんな風なのだと聞いた。彼女(愛妾)は語った、私に伝わっているところでは

[160p] 「狐と狼の話」(第 921 夜内)
فقال الملك وكيف كان ذلك . قال زعموا ان...
すると王は、それはどんな風なのだと聞いた。彼(シャンマース)は語った、彼ら(人々)が申したところでは

[160q] 「羊飼いと泥棒の話」(第 921~924 夜)
فقال لها الملك وكيف كان ذلك . قالت زعموا انه...
すると彼女(愛妾)に向かって王は、それはどんな風なのだと聞いた。彼女は語った、彼ら(人々)が申したところでは

[160r] 「黒雷鳥と亀の話」(第 924 夜内)
فقلن له وكيف كان ذلك . فقال الملك زعموا ان...
すると彼(王)に向かって彼女たち(愛妾たち)は、それはどんな風なのでしょうかと言った。王は語った、彼ら(人々)が申したところでは

[161] 「染物屋アブー・キールと床屋アブー・シールの物語」(第 930~940 夜)

ومما يحكى

ايضا ان...

さらに語り伝えられているところでは

また

[162] 「陸のアブド・アッラーフと海のアブド・アッラーフの物語」(第 940~946 夜)

ومما يحكى ايضا

انه...

さらにまた語り伝えられているところでは

[163] 「教王(カリフ) ハールーン・アッラシードとアブー・アルハサン・アルオマーニーの物語」(第 946~952 夜)

ومما يحكى ايضا

ان...

さらにまた語り伝えられているところでは

[164] 「エジプト領主アルハーシブの息子イブラーヒームの物語」(第 952~959 夜) [“イブラーヒームとジャミーラ”]

ومما يحكى ايضا

ايها الملك السعيد ان...

さらにまた語り伝えられているところでは

幸多き王よ

[165] 「教主（カリフ）アルムウタディド・ビッラーヒとホラサーンのアフマドの息子アブー・アルハサン・アーリーの物語」（第 959～963 夜）

ومما يحكى ايضا

ايها الملك السعيد ان...

さらにまた語り伝えられているところでは

幸多き王よ

[166] 「商人アブド・アッラフマーンとその息子カマル・アッザマーンの物語」（第 963～978 夜）〔“カマル・アッザマーンと宝石商の妻”〕

ومما يحكى ايضا

ايها الملك السعيد انه...

さらにまた語り伝えられているところでは

幸多き王よ

[167] 「アブド・アッラーフ・ブヌ・ファーディルと兄弟たちの物語」（第 978～989 夜）

ومما يحكى ايضا

ايها الملك السعيد ان...

さらにまた語り伝えられているところでは

幸多き王よ

[168] 「靴直しマアラーフとその妻ファーティマの物語」（第 989～1001 夜）

ومما يحكى

ايها الملك السعيد انه...

さらに語り伝えられているところでは

幸多き王よ

〔大枠の物語——結末〕

文献一覧

* 本論文中で言及したもののみを記す

1. デリダ (Derrida, Jacques) の著作〔出版年順〕

La Voix et le phénomène, Presses Universitaires de France, 1967 (邦訳、『声と現象』高橋允昭訳、理想社、1970年)

L'Écriture et la différence, Seuil, 1967 (邦訳、『エクリチュールと差異』上下、若桑毅他訳、法政大学出版局、1977・1983年)

De la grammatologie, Les Éditions de Minuit, 1967 (邦訳、『根源の彼方に——グラマトロジーについて』上下、足立和浩訳、現代思潮社、1983年)

« La mythologie blanche » (1971), in *Marges; de la philosophie*, Les Éditions de Minuit, 1972 (邦訳、「白けた神話」豊崎光一訳、篠田一士編『世界の文学 38 現代評論集』、集英社、1978年所収)

« Signature événement contexte », in *Marges, de la philosophie*, Les Éditions de Minuit, 1972; repris dans *Limited Inc.*, Galilée, 1990 (邦訳、「署名、出来事、コンテキスト」高橋允昭訳、『現代思想』1988年5月臨時増刊「総特集デリダ——言語行為とコミュニケーション」、所収)

Marges, de la philosophie, Les Éditions de Minuit, 1972 (邦訳、『哲学の余白』上、高橋允昭・藤本一勇訳、法政大学出版局、2007年)

« La double séance », in *La Dissémination*, Seuil, 1972

La Dissémination, Seuil, 1972

[René Schaerer present] « Philosophie et Communication », in *La Communication : Actes du XV^e congrès de l'Association des Sociétés de Philosophie de Langue Française*, Université de Montréal, Montréal : Éditions Montmorency, 1973 (邦訳、「哲学とコミュニケーション」廣瀬浩司訳、『現代思想』1988年5月臨時増刊「総特集デリダ——言語行為とコミュニケーション」、所収)

Glas, Galilée, 1974 [rééd. Gonthier/Denoël, 1981] (邦訳、「Glas」庄田常勝・豊崎光一訳、『現代思想』1982年2月臨時増刊「デリダ読本——手紙・家族・署名」pp.180-229〔部分訳〕;「吊鐘」鶴飼哲訳、『批評空間』II-15~III-4、1995~2002年〔中断〕)

« Pas » (初出 1976), repris dans *Parages*, Galilée, 1986 (Nouvelle édition revue et augmentée, 2003)

« Fors: les mots anglais de Nicolas Abraham et Maria Torok », Introduction à N. Abraham et M. Torok, *Cryptonomie, Le verbier de l'homme aux loups*, Aubier-Flammarion, 1976, pp.7-73、(邦訳「Fors——ニコラ・アブラハムとマリア・トロクの稜角のある言葉」若森栄樹・豊崎光一訳、『現代思想』1982年2月臨時増刊「デリダ読本——手紙・家族・署名」、pp.114-154)

« Le retrait de la métaphore » (1978), repris dans *Psyché*, 1987, nouvelle éd. t.1, 1998 (邦訳「隠喩の退 - 引」庄田常勝訳、[前半]:『現代思想』1987年5月号、pp.32-48、[後半]:12月号、pp.200-221)

« Parergon », in *La Vérité en peinture*, coll. Champs, Flammarion, 1978, pp.19-168 (邦訳、「パレルゴン」、『絵画における真理』上、高橋允昭・阿部宏慈訳、法政大学出版局、1997年)

La Vérité en peinture, Flammarion, 1978 (邦訳、『絵画における真理』上下、高橋允昭・阿部宏慈訳、法政大学出版局、1997・1998年)

“Living on, Border Lines”, translated by James Hulbert, in Harold Bloom ed., *Deconstruction and Criticism*, Routledge and Kegan Paul, 1979, pp.75-176 (邦訳、「境界を生きる——物語とは何か」大橋洋一訳、『ユリイカ』1985年4月号、pp.188-198)

« Envois », in *La Carte postale*, Flammarion, 1980, pp.5-273 (邦訳、「おくることば」豊崎光一訳、『海』1981年3月号、pp.281-311；別訳、『葉書』より) 丹生谷貴志訳、『Inter Communication』1992年0号～1993年4号〔いずれも抜粋〕)

La Carte postale, Flammarion, 1980

« La loi du genre », *Glyph*, 7, 1980, repris dans *Parages*, Galilée, 1986 [Nouvelle édition revue et augmentée, 2003] (邦訳、「ジャンルの掟」野崎次郎訳、W・J・T・ミッチェル編『物語について』平凡社、1987年所収)

« Titre à préciser » (初出1981年), repris dans *Parages*, Galilée, 1986 [Nouvelle édition revue et augmentée, 2003]

“The time of a thesis : punctuations”, in Alan Montefiore ed., *Philosophy in France Today*, Cambridge University Press, 1983, pp.34-50

« Philosophe : Derrida l'insoumis », interview par Catherine David, *Le Nouvel Observateur*, n° 983, 9 au 15 septembre 1983 (邦訳、「不服従者デリダ」浜名優美訳、『現代思想』1983年12月号、pp.56-69) ; repris sous le titre de « Desceller (« la vieille neuve langue ») » dans *Points de suspension : Entretiens*, Galilée, 1992, pp.123-140

« Préjugés, Devant la loi », in Derrida, Descombes, Kortian, Lacoue-Labarthe, Lyotard, Nancy, *La Faculté de juger*, Minuit, 1985 (邦訳、「先入見——法の前に」宇田川博訳、『どのように判断するか——カントとフランス現代思想』、国文社、1990年、所収；別訳、『カフカ論——『掟の門前』をめぐって』三浦信孝訳、朝日出版社、1988年)

Schibboleth : pour Paul Celan, Galilée, 1986 (邦訳、『シボレット——パウル・ツェランのために』飯吉光夫・小林康夫・守中高明訳、岩波書店、2000年)

« Survivre », in *Parages*, Galilée, 1986 [Nouvelle édition revue et augmentée, 2003] (初出は英訳版 “Living on, Border Lines”, 1979, その後大幅に加筆)

Parages, Galilée, 1986 [Nouvelle édition revue et augmentée, 2003]

Ulysse Gramophone, Deux mots pour Joyce, Galilée, 1987 (邦訳、『ユリシーズ グラモフォン——ジョイスに寄せるふたこと』合田正人・中真生訳、法政大学出版局、2001年)

Signéponge, Seuil, 1988 (仏語・英訳対照版 : *Signéponge/Signsponge*, trans. by Richard Rand, Columbia University Press, 1984)

« Che cos'è la poesia? » (italien: *Poesia*, I, novembre 1988), version française : *Po&sié*, n°50, 1989 ; repris dans, *Points de suspensions : Entretiens*, Galilée, 1992, pp.303-308 (邦訳、「心を通じて学ぶ——詩とはなにか」湯浅博雄・鶴飼哲訳、『総展望フランスの現代詩』〔『現代詩手帖』30周年特集版〕1990年、pp.248-258)

« Punctuations : le temps de la thèse », in *Du droit à la philosophie*, Galilée, 1990 (初出は英訳版 : “The time of a thesis : punctuations”, 1983)

Du droit à la philosophie, Galilée, 1990

Problème de la genèse dans la philosophie de Husserl, Presses Universitaires de France, 1990

Donner le temps, 1. La fausse monnaie, Galilée, 1991

L'Autre cap, suivi de La démocratie ajournée, Minuit, 1991 (邦訳、『他の岬——ヨーロッパと民主主義』高橋哲哉・鶴飼哲訳、みすず書房、1993年)；*The Other Heading*, translation in English by Michael Naas, Indiana University Press, 1992

“This strange institution called literature; an interview with Jacques Derrida”, trans. by Geoffrey Bennington & Rachel Bowlby, in Derek Attridge ed., Jacques Derrida, *Acts of literature*, Routledge, 1992

Acts of literature (Derek Attridge ed.), Routledge, 1992

Points de suspensions : Entretiens, Galilée, 1992

Khôra, Galilée, 1993 (邦訳、『コーラ——プラトンの場』守中高明訳、未来社、2004年)

Passions, Galilée, 1993 (邦訳、『パッション』湯浅博雄訳、未来社、2001年)

Sauf le nom, Galilée, 1993 (邦訳、『名を救う——否定神学をめぐる複数の声』小林康夫・西山雄二訳、未来社、2005年)

Spectres de Marx, L'État de la dette, le travail du deuil et la nouvelle Internationale, Galilée, 1993

Moucou aller-retour suivi d'un entretien avec N. Avtonomova, V. Podoroga, M. Ryklin, Éditions de l'Aube, 1995 (『ジャック・デリダのモスクワ』土田知則訳、夏目書房、1996年)

Le Monolinguisme de l'autre, ou la prothèse d'origine, Galilée, 1996 (邦訳、『たった一つの、私のものではない言葉——他者の単一言語使用』守中高明訳、岩波書店、2001年)

De l'hospitalité (Derrida & Anne Dufourmantelle), Calmann-Lévy, 1997 (邦訳『歓待について——パリのゼミナールの記録』アンヌ・デュフルマンテル序論、廣瀬浩司訳、産業図書、1999年)

Demeure, Maurice Blanchot, Galilée, 1998 (邦訳、『滞留【付／モーリス・ブランショ「私の死の瞬間」】』湯浅博雄監訳、未来社、2000年)

Donner la mort, Galilée, 1999 (邦訳、『死を与える』廣瀬浩司・林好雄訳、ちくま学芸文庫、筑摩書房、2004年；英訳 *The Gift of Death*, translated by David Wills, The University of Chicago Press, 1995)

“Hospitality, Justice and Responsibility, A dialogue with Jacques Derrida”, in Richard Kearney and Mark Dooley eds., *Questioning Ethics, Contemporary debates in philosophy*, Routledge, 1999 (邦訳、『歓待、正義、責任——ジャック・デリダとの対話』安川慶治訳、『批評空間』II-23、1999年、pp.192-209)

Sur parole : Instantanés philosophiques, Éditions de l'aube, 1999 (邦訳、『言葉にのって』林好雄・森本和夫・本間邦雄訳、ちくま学芸文庫、筑摩書房、2001年)

Papier Machine, Galilée, 2001 (邦訳、『パピエ・マシン——物質と記憶』上・下、中山元訳、ちくま学芸文庫、筑摩書房、2005年)

Jacques Derrida: Deconstruction Engaged, The Sydney Seminars (Paul Patton & Terry Smith eds.), Power Publications, 2001 (邦訳、『ポール・パットン&テリー・スミス編『デリダ、脱構築を語る——シドニー・セミナーの記録』谷徹・亀井大輔訳、岩波書店、2005年)

Chaque fois unique, la fin du monde, Galilée, 2003 (邦訳、『そのたびごとにただ一つ、世界の終焉』〈1〉・〈2〉：〈1〉土田知則・岩野卓司・國分功一郎訳、〈2〉土田知則・岩野卓司・藤本一勇・國分功一郎訳、岩波書店、2006年)；初出は英訳版 *The Work of Mourning*, edited by Pascale-Anne Brault & Michael Naas, University of Chicago Press, 2001

Déplier Ponge : Entretien avec Gérard Farasse, Presses Universitaires du Septentrion,

2005

〔対談〕ジャック・デリダ&豊崎光一「誘惑としてのエクリチュール——絵葉書、翻訳、哲学」、『海』1981年3月号、pp.256-280

雑誌特集号

『現代思想』vol.10-3、1982年2月臨時増刊、デリダ読本——手紙・家族・署名

『理想』No.618、1984年 特集=デリダ

『現代思想』vol.16-6、1988年5月臨時増刊、総特集=デリダ——言語行為とコミュニケーション

『現代思想』vol.27-3、1999年3月号、特集=デリダ

『現代思想』vol.32-15、2004年12月号、緊急特集=ジャック・デリダ

『思想』No.969、2005年1月号、デリダへ

2. 『千夜一夜』のテキスト〔初版の出版年順、本論文で使用した版を示す〕

الف ليلة وليلة / مقابلة وتصحيح محمد قطة العدوي. الف ليلة و ليلة بغداد : يطلب من مكتبة المتنى (The Book of a Thousand and one night, reprinted on an original copy of the Bulaq edition of 1252 A.H", 2vols).

الف ليلة وليلة (Book of Thousand Nights, by Sir W. H. Macnaghten, 4vols., Calcutta, 1839-1842) [filmed by the British Library].

Les Mille et une nuits, contes arabes, traduits par Galland ; éd. revue et préface par Gaston Picard, Garnier, 1960, 2vols.

The Thousand and One Nights, commonly called, in England, the Arabian Nights' Entertainments, a new translation from the arabic, with copious notes by Edward William Lane, London: Chatto and Windus, 1889, 3vols.

The Book of the Thousand nights and a night, translated from the Arabic by Sir R.F. Burton ; reprinted from the original edition and edited by Leonard C. Smithers ; illustrated, London : H.S. Nichols, 1897, 12vols.

Le Livre des Mille Nuits et une Nuits, Traduction littérale et complète du texte arabe par le Dr. J. C. Mardrus, Fasquelle Éditeurs, 16vols., 1899-1904

Die Erzählungen aus den Tausendundein Nächten, zum ersten Mal nach dem arabischen Urtext der Calcuttaer Ausgabe aus dem Jahre 1839 übertragen, 1921-1928 (translated by Enno Littmann); reprint, Insel-Verlag (Wiesbaden), 6vols., 1953

The Thousand and one nights : the hunchback, Sindbad, and other tales, translated by Nessim Joseph Dawood, Penguin Books, 1954

The Thousand and One Nights (Alf Layla wa-Layla) from the Earliest Known Sources, Arabic Text Edited with Introduction and Notes by Muhsin Mahdi, Part 1, Arabic Text, E. J. Brill, 1984

Les Mille et Une Nuits, Édition intégrale établie par René Khawan, 4vols., Phébus, 1986-1987

The Arabian Nights, translated by Husain Haddawy, Based on the text of the Fourteenth-Century Syrian Manuscript edited by Muhsin Mahdi, Everyman's Library, 1990

The Arabian Nights II, Sindbad and Other Popular Stories, translated by Husain Haddawy, Everyman's Library, 1995

Les Mille et Une Nuits, Édition de Jamel Bencheikh et André Miquel, Gallimard, folio, 3vols., 1991-1996 (I & II : 1991, III : 1996)

Les Mille et Une Nuits, texte traduit et présenté par Jamel Eddine Bencheikh et André Miquel, et annoté par André Miquel, Bibliothèque de la Pléiade, Gallimard, 3vols., vol. 1 (Nuits 1 à 327) : 2005, vol. 2 (Nuits 327 à 719) : 2006, vol. 3 (Nuits 719 à 1001) : 2007

『バートン版 アラビアンナイト物語 千夜一夜物語拾遺』大場正史訳、角川文庫、角川書店、1965年

『バートン版 千夜一夜物語』大場正史訳、河出書房、全8巻、1967年

『バートン版 千夜一夜物語』大場正史訳、ちくま文庫、筑摩書房、全11巻、[初版1967年]、新装版2003-2004年

『アラビアン・ナイト』前嶋信次・池田修訳、東洋文庫、平凡社、全18巻および別巻1、1976-1992年

『完訳千一夜物語』豊島与志雄・渡辺一夫・佐藤正彰・岡部正孝ほか訳、岩波文庫、岩波書店、全13巻、1982-1983年

『千一夜物語』佐藤正彰訳、ちくま文庫、筑摩書房、全10巻、1988-1989年

『千夜一夜物語 ガラン版』J. L. ボルヘス編、井上輝夫訳、国書刊行会、1990年

『千一夜物語 幻想と知恵が織りなす世界』池田修監修、康君子訳、同文書院、1994年

3. その他の文献

Abbott, Nabia, "A Ninth-Century Fragment of the "Thousand Nights": New Lights on the early history of the Arabian Nights", *Journal of Near Eastern Studies*, no. 8, 1949, pp.129-164

Abdel-Halim, Mohamed, *Antoine Galland, sa vie et son œuvre*, A. Z. Nizet, 1964

Abraham Nicolas & Maria Torok, *Cryptonomie, Le verbiage de l'homme aux loups*, Paris, Aubier-Flammarion, 1976 (邦訳、ニコラ・アブラハム&マリア・トローク『狼男の言語標本——埋葬語法と精神分析』港道隆・前田悠希・森茂起・宮川貴美子訳、法政大学出版局、2006年)

Aoyagi, Etsuko, "Repetitiveness in the *Arabian Nights* : Open Identity as Self-foundation", in Nishio & Yamanaka eds., *Arabian Nights and Orientalism*, L. B. Tauris, 2006, pp.68-90

Arnaud, Jacqueline, « Ulysse et Sindbad dans l'imaginaire Maghrébin » in Micheline Galley and Leïla Ladimi Sebai ed., *L'Homme méditerranéen et la mer*, Tunis : Salammbô, 1985, pp.536-553

Attridge, Derek, *The Singularity of Literature*, Routledge, 2004

Augustinus, Aurelius, *Confessiones* (邦訳、アウグスティヌス『告白録』上・下、宮谷宣史

訳、『アウグスティヌス著作集』第5巻(1・2)、教文館、1993年)

Barthes, Roland, *Sur Racine*, Seuil, 1963 (邦訳、ロラン・バルト『ラシーヌ論』渡辺守章訳、みすず書房、2006年)

--- « La mort de l'auteur » (1968), repris dans *Le bruissement de la langue*, Seuil, 1984, pp.61-67 (邦訳、ロラン・バルト「作者の死」花輪光訳、『物語の構造分析』、みすず書房、1979年所収)

--- *S/Z*, Seuil, 1970 (邦訳、『S/Z——バルザック「サラジューヌ」の構造分析』沢崎浩平訳、みすず書房、1973年)

--- « La lute avec l'ange : analyse textuelle de « Genèse » » (1972) repris dans *Aventure sémiologique*, Seuil, 1985 (邦訳、「天使との格闘——「創世記」三二章二三—三三節のテキスト分析」花輪光訳、『物語の構造分析』、みすず書房、1979年所収)

Frédéric Bauden, « Un manuscrit inédit des Mille et Une Nuits: à propos de l'exemplaire l'Université de Liège », A. Chraïbi dir., *Les Mille et Une Nuits en partage*, Sindbad/Actes Sud, 2004, pp.465-475

Baudrillard, Jean, *La Société de Consommation*, 1970 (邦訳、『消費社会の神話と構造』今村仁司・塚原史訳、紀伊国屋書店、1979年)

--- *L'Échange symbolique et la mort*, Gallimard, 1976 (邦訳、『象徴交換と死』今村仁司・塚原史訳、筑摩書房、1982年 [ちくま学芸文庫、1992年])

Bencheich, Jamel Eddine, « Génération du récit et stratégie du sens, L'Histoire de Qamar Az Zamân et de Budûr », *Communications* 39, 1984, repris dans Bencheich, *Les Mille et une Nuits ou la parole prizonière*, Gallimard, 1988, pp.97-125

--- *Les Mille et une Nuits ou la parole prizonière*, Gallimard, 1988

Bencheikh, Jamel Eddine & Bremond, Claude & Miquel André, *Mille et un contes de la nuit*, Gallimard, 1991

Benveniste, Émile, *Problèmes de linguistique générale*, Gallimard, 1966, pp.251-266 (邦訳、エミール・バンヴェニスト『一般言語学の諸問題』岸本通夫監訳、河村正夫 [ほか] 共訳、みすず書房、1983年)

Blanchot, Maurice, *Le Livre à venir*, Gallimard, 1959 (邦訳、モーリス・ブランショ『来るべき書物』栗津則雄、筑摩書房、1976年)

--- *L'Instant de ma mort*, Fata Morgana, 1994 (rééd., Gallimard, 2002)

Cambell, Kay Hardy, Ferial J. Ghazoul, Andras Hamori, Muhsin Mahdi, Christoper M. Murphy & Sandra Naddaff, *The 1001 Nights, The Critical Essays and Annotated Bibliography*, Dar Mahjar (Cambridge, MA.), 1985

Chauvin, Victor, *Bibliographie des ouvrages arabes ou relatifs aux arabes publiés dans l'Europe chrétienne de 1810-1885*, 12vols., 1892-1922, Liège : H. Vaillant-Carmanne ; Leipzig : O. Harrassowitz (vols.4-5 : Les Mille et une nuits, 1900)

Chraïbi, Aboubakr, « Introduction », in A. Chraïbi dir., *Les Mille et Une Nuits en partage*, Actes sud, 2004, pp.9-14

--- dir., *Les Mille et Une Nuits en partage*, Actes du colloque Fondation Singer-Polignac-Inalco, Sindbad/Actes Sud, 2004

Clark, Timothy, *Derrida, Heidegger, Blanchot: Sources of Derrida's Notion and Practice of Literature*, Cambridge University Press, 1992

- *The Poetics of Singularity : The Counter-Culturalist Turn in Heidegger, Derrida, Blanchot and the later Gadamer*, Edinburgh University Press, 2005
- Cosquin, Emmanuel, *Études folkloriques*, Édouard Champion, 1922
- Coussonnet, Patrice, *Pensée mythique, idéologie et aspirations sociales dans un conte des Mille et une Nuits*, Institut français d'archéologie orientale du Caire, 1989
- Deleuze, Gilles, *Différence et Répétition*, Presses Universitaires de France, 1968 (邦訳、ジル・ドゥルーズ『差異と反復』財津理訳、河出書房新社、1992年)
- Deleuze, Gilles & Guattari, Felix, *Kafka : Pour une littérature mineure*, Minuits, 1975 (邦訳、ジル・ドゥルーズ&フェリックス・ガタリ『カフカ : マイナー文学のために』宇波彰・岩田行一訳、法政大学出版局、1978年)
- De Man, Paul, *Allegories of reading : figural language in Rousseau, Nietzsche, Rilke, and Proust*, New Haven : Yale University Press, 1979
- *Aesthetic Ideology*, University of Chicago Press, 1996 (邦訳、ポール・ド・マン『美学イデオロギー』上野成利訳、平凡社、2005年)
- Direk, Zeynep & Lawlor, Leonard ed., *Jacques Derrida: Critical Assessments of Leading Philosophers*, Routledge, voll. II, 2002
- Elisséeff, Nikita, *Thèmes et motifs des Mille et Une Nuits : essai de classification*, Beyrouth, Institut Français de Damas, 1949
- El-Shamy, Hasan, "Oral Traditional Tales and the Thousand Nights and a Night : The Demographic Factor", in Morten Nøjgaard ed., *The Telling of Stories ; Approaches to a Traditional Craft*, Odense University Press, 1990, pp.63-117
- "The Oral Connections of the Arabian Nights", in Marzolph & Leeuwen ed., *The Arabian Nights Encyclopedia*, 2004, pp.9-13
- Fakhry, Majid, *Islamic Occasionalism and its critique by Averroës and Aquinas*, London: George Allen & Unwin Ltd., 1958
- Galland, Antoine, « Journal parisien d'Antoine Galland (1708-1715), précédé de son autobiographie (1646-1715) », [présenté par H. Omont et Despréaux (Curé de Saint-Lazare)], in *Mémoires de la Société de l'Histoire de Paris et de l'Île-de-France*, tome XLVI, 1919, E. Champion, 1920
- Gardet, Louis & Anawati, M. -M. *Introduction à la Théologie Musulmane, Essai de théologie comparée* (2 éd.), J. Vrin, 1970
- Gashé, Rodolphe, "God, for Example", *Phenomenology and the Numinous*, Duquesne University Press, 1988, pp.43-46
- Gelder, Geert Jan van, "Poetry and the Arabian Nights", in Marzolph & Leeuwen ed., *The Arabian Nights Encyclopedia*, 2004, pp.13-17
- Genette, Gérard, « Vertige fixé », in *Figures (I)*, Seuil, 1966 (邦訳、ジェラルール・ジュネット「固定したためまい」神郡悦子訳、『フィギュール I』花輪光監訳、書肆風の薔薇、1987年；『フィギュール』平岡篤頼・松崎芳隆訳、未來社、1993年所収)
- *Figures (I)*, Seuil, 1966 (邦訳、『フィギュール I』花輪光監訳、書肆風の薔薇、1987年；『フィギュール』平岡篤頼・松崎芳隆訳、未來社、1993年)
- *Figures II*, Seuil, 1969 (邦訳、『フィギュール II』花輪光監訳、書肆風の薔薇、1989年)

--- *Figures III*, 1972. (邦訳 [巻頭の4論文]、『フィギュールⅢ』花輪光監訳、書肆風の薔薇、1987年 [« Discours du récit » についてはこの項参照])

--- « Discours du récit », in *Figures III*, Seuil, 1972 (邦訳、『物語のディスクール——方法論の試み』花輪光・和泉涼一訳、書肆風の薔薇、1985年)

--- *Introduction à l'architexte*, Seuil, 1979 (邦訳、『アルシテクスト序説』和泉涼一訳、書肆風の薔薇、1986年)

--- *Mimologiques : Voyage en Cratylie*, Seuil, 1979 (邦訳、『言語的模倣論——ミモロジックまたはクラテュロスのもとへの旅』花輪光監訳、書肆風の薔薇、1991年)

--- *Palimpsestes : la littérature au second degré*, Seuil, 1982 (邦訳、『パランプセスト——第二次の文学』和泉涼一訳、水声社、1995年)

--- *Nouveau discours du récit*, Seuil, 1983 (邦訳、『物語の詩学——続・物語のディスクール』和泉涼一・神郡悦子訳、書肆風の薔薇、1985年)

--- *Seuils*, Seuil, 1987 (邦訳、『スイユ——テクストから書物へ』和泉涼一訳、水声社、2001年)

--- *Fiction et diction*, Seuil, 1991 (« Les actes de fiction ») (邦訳、『フィクションとディクション』和泉涼一・尾河直哉訳、水声社、2004年)

--- *L'Œuvre de l'art : Immanence et transcendance*, Seuil, 1994

--- *La Relation esthétique : L'Œuvre de l'art 2*, Seuil, 1997

Gerhardt, Mia, *The Art of Story-Telling : a Literary Study of the Thousand and one Nights*, Leiden, E. J. Brill, 1963

Germain, Gabriel, *Essai sur les origines de certains thèmes odysseens et la genèse de l'Odyssée*, PUF, 1954

Ghazoul, Ferial J., *Nocturnal Poetics, The Arabian Nights in Comparative Context*, The American University in Cairo Press, 1996

Gimaret, Daniel. *La doctrine d'al-Ash'arī*, Les éditions du Cerf, 1990

Grotzfeld, Heinz, "Neglected Conclusions of the *Arabian Nights*, Gleanings in Forgotten and Overlooked Recensions, *Journal of Arabic Literature*, 1985, No.16, pp.73-87

--- "The Manuscript Tradition of the *Arabian Nights*", in Marzolph & Leeuwen ed., *The Arabian Nights Encyclopedia*, ABC-CLIO, 2004, vol.1, pp.17-21

Grunebaum, Gustave E. von, "Greek Form Elements in the *Arabian Nights*", *Journal of the American Oriental Society* 62, 1942, pp.277-292

Hämeen-Anttila, Jaakko, "Oral vs. Written: Some Notes on the *Arabian Nights*", *Acta Orientalia*, 56, pp.184-192

Hammer, Joseph de von, « Sur l'origine des Mille et une Nuits », *Journal asiatique*, vol. 10, 1827, pp.253-256

Hamori, Andras, "The Magian and the Whore: Readings of Qmar al-Zaman, in Cambell et al, *The 1001 Nights, The Critical Essays and Annotated Bibliography*, Dar Mahjar (Cambridge, MA.), 1985, pp.25-40

Harvery, Irene E., "Doubling the Space of Existence: Exemplarity in Derrida : the Case of Rousseau", in John Sallis ed., *Deconstruction and Philosophy, The Texts of Jacques Derrida*, University of Chicago Press, 1987, pp.60-70

--- “Derrida and the Issues of Exemplarity”, in David Wood ed., *Derrida : A Critical Reader*, Blackwell, 1992, pp.193-217

Heath, Peter, “Romance as Genre in “The Thousand and One Nights””, *Journal of Arabic Literature*, Part 1 : XVIII, 1989, pp.1-21, Part 2 : XIX, 1989, pp.1-26

Hobson, Marian, « L'exemplarité de Derrida », in *Jacques Derrida [L'Herne 83]*, dirigé par Marie-Louise Mallet et Ginette Michaud, Editions de l'Herne, 2004, pp.378-384

Horovitz, Josef, “Poetisch Zitate in Tausend und eine Nacht”, in Gotthold Weil ed., *Festschrift Eduard Sachau zum Siebzigsten Geburtstage*, Reimer (Berlin), 1915, pp.375-378

Hovannisian, Richard G. (éd.) et al, *The Thousand and One Nights in arabic Literature and Society* (Giorgio Levi Della Vida Conferences), Cambridge U.P., 1997

Husserl, Edmund, *L'Origine de la Géométrie*, Traduction et Introduction par Jacques Derrida, Presses Universitaires de France, 1962. (邦訳、E・フッサール『幾何学の起源、デリダ——序説』、田島節夫・矢島忠夫・鈴木修一訳、青土社、1988年)

Irwin, Bonnie D., “What in a Frame? The Medieval Textualization of Traditional Storytelling”, *Oral Tradition*, vol.10-1, pp.27-53

Jakobson, Roman & Lévi-Strauss, Claude, « *Les Chats* de Charles Baudlaire », *L'Homme*, Tome II, n°1. 1962, pp.5-21 (邦訳、ロマン・ヤコブソン&クロード・レヴィ＝ストロース「シャルル・ボードレールの「猫たち」」花輪光訳、花輪光編『詩の記号学のために——シャルル・ボードレールの詩篇「猫たち」を巡って』、書肆風の薔薇、1985年所収)

Kafka, Franz, « Lettre au père », dans *Carnets, Œuvres Complètes*, t. VII, éd. et tr. N. Robert, Cercle du Livre Précieux, 1957 (邦訳、フランツ・カフカ「父への手紙」飛鷹節訳、『決定版カフカ全集 第3巻』マックス・ブロー特編集、新潮社、1981年；〔旧訳〕「父への手紙」飛鷹節訳、『カフカ全集IV』新潮社、1959年)

Kant, Emmanuel, *Critique de la faculté de juger*, éd. par Ferdinand Alquié, Gallimard, coll. folio, 1985 (邦訳、エマニュエル・カント『カント全集 8 判断力批判 (上)』『カント全集 9 判断力批判 (下)』、牧野英二訳、岩波書店、1999 - 2000年)

Kierkegaard, Søren, *Crainte et tremblement* dans *Œuvres Complètes*, t. V, P.H. Tisseau et E. M. Jacquet-Tisseau, Éditions de l'Orante, 1972 (邦訳、キルケゴール『おそれとおのき』梶田啓三郎訳、『キルケゴール著作集5』白水社、1995年)

Kobayashi, Kazue, “Illustrations to the *Arabian Nights*”, in Marzolph & Leeuwen ed., *The Arabian Nights Encyclopedia*, 2004, pp.29-34

Kristeva, Julia, *Σημειωτική : Recherches pour une sémanalyse*, Seuil, 1969 (邦訳、ジュリア・クリステヴァ『記号の解体学、セメイオチケ 1』原田邦夫訳、せりか書房、1983年；『記号の生成論、セメイオチケ 2』中沢新一・原田邦夫・松浦寿夫・松枝到訳、せりか書房、1984年)

Kronick, Joseph G., *Derrida and the Future of Literature*, State University of New York Press, 1999

Kühnel, Ernst, *The Arabesque, Meaning and Transformation of an Ornament* [1949], translated by Richard Ettinghausen, Graz : Verlag für sammler, 1976

Lacan, Jacques, « Le séminaire sur « La Lettre volée » », in *Écrit* (I), 1966 (邦訳、ジャック・ラカン『エクリ 1』宮本忠雄ほか訳、弘文堂、1972年)

Lane, Edward William, *The Manners and Customs of the Modern Egyptians*, 1836 (邦訳、ウィリアム・レイン『エジプトの生活——古代と近代の奇妙な混淆』大場正史訳、桃源社、1964

年)

--- *Arabian Society in the Middle Ages, Studies from The Thousand and One Nights*, edited by Stanley Lane-Poole [1883], London : Curzon Press ; New Jersey : Humanities Press, 1987

Lévinas, Emmanuel, « La mort et le temps », Cours de 1975-1976, *Cahiers de L'Herne*, no.38, 1991 (邦訳、エマニュエル・レヴィナス「死と時間」、『神・死・時間』合田正人訳、法政大学出版局、1994年所収)

Lisse, Michel dir., *Passions de la littérature : avec Jacques Derrida*, Galilée, 1996

Littmann, Enno, *Tausendundeine Nacht in der arabischen Literatur*, Mohr (Tübingen), 1923.

--- [article] « Alf Layla wa-Layla », *Encyclopédie de l'Islam*, vol.1 Brill, 1960, pp.369-375

Lucy, Niall, *A Derrida D Lisse, Michel, Passions de la littérature, avec Jacques Derrida*, Galilée, 1996

MacDonald, Duncan B., "Maximilian Habicht and His Recension of the Thousand and One Nights", *Journal of the Royal Asiatic Society*, 1909, pp.685-704

--- "Lost Manuscripts of the 'Arabian Nights' and a Projected Edition of that of Galland", *Journal of the Royal Asiatic Society*, 1911, pp.219-221

--- "A Preliminary Classification of Some Mss. of the Arabian Nights", in *A Volume of Oriental Studies : Presented to Edward G. Browne on his 60th Birthday*, ed., by W. Arnold and Reynold A. Nicholson, Cambridge University Press, 1922, pp.304-321

--- "The Earlier History of the Arabian Nights", *Journal of the Royal Asiatic Society*, 1924, pp.353-397

--- [article] "Alf Layla wa-Layla", (first) *Encyclopedia of Islam*, 1913-1936, vol. IX, Supplement 1, pp.17-21

Mahdi, Muhsin, "Exemplary Tales in the 1001 Nights", in *The 1001 Nights : Critical Essays and Annotated Bibliography*, Mundus Arabicus, No. 3, 1983, pp.1-124 [revised as Appendix 2 in Mahdi, *The Thousand and One Nights (Alf Layla wa-Layla) From the Earliest Known Sources*, Part 3, 1994]

--- *The Thousand and One Nights (Alf Layla wa-Layla) From the Earliest Known Sources*, Part 1: Arabic Text Edited with Introduction and Notes ; Part 2: Critical apparatus, Description of Manuscripts, E.J. Brill, 1984

--- *The Thousand and One Nights, (Alf Layla wa-Layla) From the Earliest Known Sources*, Part 3 : Introduction and Indexes, E.J. Brill, 1994

Mahfouz, Naguib, *Arabian Nights and Days*, translated by Ds Johnson-Davies, The American University in Cairo Press ; Anchor Books, 1995

Marzolph, Ulrich & Leeuwen, Richard van ed. *The Arabian Nights Encyclopedia*, 2vols., Santa Barbara (California) : ABC-Clío, 2004

May, Georges, *Les Mille et une nuits d'Antoine Galland*, PUF, 1986

Miller, J. Hillis, *Fiction and Repetition : Seven English Novels*, Harvard University Press, 1982 (邦訳、J・ヒリス・ミラー『小説と反復——七つのイギリス小説』玉井暉ほか訳、英宝社、1991年)

--- *Topographies*, Stanford University Press, 1995, esp. p.300 (邦訳、J・ヒリス・ミラー『批

評の地勢図』森田孟訳、法政大学出版局、1999年)

Miquel, André, « Préface », *Les Mille et Une Nuits*, Bibliothèque de la Pléiade, Gallimard, vol.1, 2005, pp. xi-xlvi.

Mitchell, W. J. T., *On Narrative*, The University of Chicago Press, 1981 (邦訳、W・J・T・ミッチェル編『物語について』海老根宏・新妻昭彦・林完枝・原田大介・野崎次郎・虎岩直子訳、平凡社、1987年)

Molan, Peter D. "Sindbad the Sailor, A Commentary on the Ethics of Violence", *Journal of American Oriental Society*, 1978, pp.237-247

--- "The *Arabian Nights*: The Oral Connection", *Edebiyât*, 2, 1988, pp.191-204
ictionary, Blackwell, 2004

Montefiore, Alan, ed., *Philosophy in France Today*, Cambridge University Press, 1983

Naas, Michael, "Introduction : for example", in Derrida, *The Other Heading*, Indiana University Press, 1992, pp.vii-lix ; repris dans Zeynep Direk & Leonard Lawlor eds., *Jacques Derrida: Critical Assessments of Leading Philosophers*, Routledge, voll. II, 2002, pp.322-341

Naddaff, Sandra, *Arabesque, Narrative Structure and the Aesthetics of Repetition in the 1001 Nights*, Northwestern University Press, 1991

Nouvel, Jean & Baudrillard, Jean, *Les objets singuliers : architecture & philosophie*, Calmann-Lévy, 2000 (邦訳、ジャン・ヌーヴェル&ジャン・ボードリヤール『les objets singuliers—建築と哲学』塚原史訳、鹿島出版会、2005年)

Ong, Walter J., "The Writer's Audience Is Always a Fiction", reprint in Ong, *Interfaces of the Word, Studies in the Evolution of Consciousness and Culture*, Cornell University Press, 1977, pp.53-81

--- *Orality and literacy, the technologizing of the word*, Methuen, 1982 (邦訳、W.-J. オング『声の文化と文字の文化』桜井直文・林正寛・糟谷啓介訳、藤原書店、1991年)

Ouyang, When-chin & Gelder, Geert Jan van, *New Perspectives on Arabian Nights, Ideological Variations and Narrative Horizons*, Routledge, 2005

Parker, Margaret R., *The Story of a Story Across Cultures: The Case of the 'Doncella Teodor'*, Tamesis Books, 1996

Patočka, Jan, *Essais hérétiques sur la philosophie de l'histoire* (Prague, 1975), traduit du tchèque par Erika Abrams, Paris: Verdier, 1981

Patton, Paul & Smith, Terry ed., *Jacques Derrida: Deconstruction Engaged, The Sydney Seminars*, Power Publications, 2001 (邦訳、ポール・パットン&テリー・スミス編『デリダ、脱構築を語る—シドニー・セミナーの記録』谷徹・亀井大輔訳、岩波書店、2005年)

Paulvé, Dominique & Chesnais, Marion, *Les Mille et Une Nuits et les enchantements du Docteur Mardrus*, Musée du Monparnasse-Éditions Norma, 2004.

Payne, John, « The book of the Thousand nights and one nights : its history and character » (terminal essay), in *The Book of the Thousand Nights and One Night*, trranslated by John Payne, vol.9, 1901, pp.263-392

Pinault, David, *Story-Telling Techniques in the Arabian Nights*, Leiden; New York; Köln, E. J. Brill, 1992

Ponge, Francis, *Parti pris des choses* (1942), repris dans *Tom premier* (邦訳、『物の味方』、阿部弘一訳、思潮社、1971年)

--- *Proème* (1948), repris dans *Tom premier*

--- *La Rage d'expression* (1952), repris dans *Tom premier*

--- *Pièces*, Gallimard, 1962

--- *Tom premier*, Gallimard, 1965

--- *Le Savon*, Gallimard, 1967

Rabaté, Jean-Michel et Wetzell, Michael, *L'Éthique du don : Jacques Derrida et la pensée du don* : colloque de Royaumont, décembre 1990, Métailié-Transition : Diffusion Seuil, 1992

Rand, Richard, ed., *Futures of Jacques Derrida*, Stanford University Press, 2001

Récanati, François, *La Transparence et l'Énonciation*, Seuil, 1979 (邦訳、フランソワ・レカナティ『ことばの運命——現代記号論序説』菅野盾樹訳、新曜社、1982年)

Richards, I. A., *The philosophy of rhetoric*, Oxford University Press, [1936], 1965 (邦訳、I・A・リチャーズ『新修辞学原論』石橋幸太郎訳、南雲堂、1961年)

Richardson, John, *A Grammar of the Arabic Language. In which Rules are Illustrated by Authorities from the Best Writers: Principally adapted for the Service of the Honourable East India Company*, (1776), 1801

Ricoeur, Paul, *La métaphore vive*, Seuil, 1975 (邦訳、ポール・リクール『生きた隠喩』久米博訳、岩波書店、1984年)

Rousseau, Jean-Jacques, *Les Confessions*, Garnier Frères, 1964 (邦訳、ジャン＝ジャック・ルソー『告白』上・下、『ルソー全集』第1巻-第2巻、小林善彦訳、白水社、1979 - 1981年)

--- *Les Rêveries du promeneur solitaire*, Garnier frères, 1960 (邦訳、『孤独な散歩者の夢想』佐々木康之訳、『ルソー全集』第2巻、白水社、1981年所収)

Royle, Nicholas, "What is Deconstruction", in Royle ed., *Deconstructions : A User's Guide*, Basingstoke & New York : Palgrave, 2000

--- *Jacques Derrida*, Routledge, 2003 (邦訳、ニコラス・ロイル『ジャック・デリダ』田崎英明訳、青土社、2006年)

Said, Edward, *Orientalism*, Pantheon Books (New York), 1978 (邦訳、エドワード・サイード『オリエンタリズム』今沢紀子訳、板垣雄三・杉田英明監修、平凡社、1986年 [平凡社ライブラリー、上・下巻、1993年])

--- *The World, the Text and the Critic*, Harvard University Press, 1983, pp.210-212 (邦訳、『世界・テキスト・批評家』山形和美訳、法政大学出版社、1995年)

Schwab, Raymond, *L'auteur des Mille et une nuits : Vie d'Antoine Galland*, Mercure de France, 1964

Searle, John R., *Expression and meaning ; studies in the theory of speech acts*, Cambridge U.P., 1979

Shiojiri, Kazuko, "Cosmology of al-Ash'arī --- Introduction of Atomistic Ontology into Sunnite Kalām", 『哲学・思想論集』(筑波大学哲学・思想学系) 28, 2003, pp.17-28

--- "Cosmology of Bāqillānī --- Development of Atomistic Ontology in Sunnite Theology", 『哲学・思想論集』(筑波大学哲学・思想学系) 29, 2004, pp.23-30

Sironval, Margaret, *Album Mille et Une Nuits, Iconographie choisie et commentée par Margaret Sironval*, Bibliothèque de la Pléiade, Gallimard, 2005

--- « Les Manuscrits des « Mille et Une Nuits » », in J. E. Bencheikh & A. Miquel éd., *Les Mille et Une Nuits*, Bibliothèque de la Pléiade, Gallimard, vol.3, 2007, pp.1011-1018

Slymovics, Susan, “Perfoming A Thousand and One Nights in Egypt”, *Oral Tradition*, vol.9-2, 1994, pp.390-419

Sugita, Hideaki, “The Arabian Nights in Modern Japan: A Brief Historical Sketech”, in Yamanaka & Nishio ed., *The Arabian Nights and Orientalism*, I. B. Tauris, 2006, pp.116-155

Todorov, Tzvetan, *Littérature et signification*, Larousse, 1967 (邦訳、ツヴェタン・トドロフ『小説の記号学：文学と意味作用』菅野昭正・保莉瑞穂訳、大修館書店、1974年)

--- *Grammaire du Decameron*, Mouton, 1969

--- *Introduction à la littérature fantastique*, Seuil, 1970 (邦訳、『幻想文学——構造と機能』渡辺明正・三好郁朗訳、朝日出版、1975年；『幻想文学論序説』三好郁朗訳、創元ライブラリ、東京創元社、1999年)

--- *Théories du symbole*, Seuil, 1977 (邦訳、『象徴の理論』及川馥・一之瀬正興訳、法政大学出版社、1987年)

--- « Les hommes-récits : les Milles et une nuits », *Poétique de la prose*, Seuil, 1978, pp.33-46

Torrens, Henry, “Remarks on M. Schlegel’s objections to the Restored Editions of the Alif Leilah or Arabian Nights’ Entertainments”, *Journal of Arabic Society of Bengal*, No. 6, 1837, pp.161-168 [reprinted in *The Asiatic Journal and Monthly Register* (London), No.25, 1838, pp.72-77]

Valéry, Paul, « La crise de l’esprit » (1919), in *Variété*, repris dans *Œuvres 1*, Gallimard, coll. Pléiade, pp.988-1000 (邦訳、ポール・ヴァレリー「精神の危機」桑原武夫訳、『ヴァレリー全集 11 文明批評』、筑摩書房、1967年、pp.24-41；松田浩則訳、『ヴァレリー・セレクトション (上)』、平凡社ライブラリー、2005年、pp.68-90)

--- « Note (ou L’Européen) » (1922), in *Variété*, repris dans *Œuvres 1*, Gallimard, coll. Pléiade, pp.1000-1014 (邦訳、「ヨーロッパ人」渡辺一夫・佐々木明訳、『ヴァレリー全集 11 文明批評』、筑摩書房、1967年、pp.42-59)

--- « Fonction de Paris » (1927), in *Regard sur le Monde actuel*, repris dans *Œuvres 2*, Gallimard, coll. Pléiade, pp.1007-1010 (邦訳、「パリの機能」鈴木力衛訳、『ヴァレリー全集 12 現代世界の考察』、筑摩書房、1968年、pp.125-128)

--- « Présence de Paris » (1937), in *Regard sur le Monde actuel*, repris dans *Œuvres 2*, Gallimard, Bibliothèque de la Pléiade, p.1011-1015 (邦訳、「パリの存在」鈴木力衛訳、『ヴァレリー全集 12 現代世界の考察』、筑摩書房、1968年、pp.129-135)

--- « Pensée et art français » (1939), in *Regard sur le Monde actuel*, repris dans *Œuvres 2*, Gallimard, Bibliothèque de la Pléiade, pp.1046-1058 (邦訳、「フランスの思想と芸術」菊池映二訳、『ヴァレリー全集 12 現代世界の考察』、筑摩書房、1968年、pp.181-196)

Warminski, Andrzej, “Reading for example : ‘Sense-Certainty’ in Hegel’s *Phenomenology of Spirit*”, *Diacritics*, vol.11-2, 1981, pp.83-96

--- “Pre-Positional By-Play”, *Glyph* 3, 1978, pp.98-117

Yamanaka, Yuriko & Nishio, Tetsuo, eds., Introduction by Robert Irwin, *The Arabian*

Nights and Orientalism, Perspectives from East and West, I.B.Tauris, 2006

Ziegler, Jean, *La faim dans le monde expliquée à mon fils*, Seuil, 1999 (邦訳、ジャン・ジグレル『世界の半分が飢えるのはなぜ?——ジグレル教授がわが子に語る飢餓の真実』たかおまゆみ訳、合同出版、2003年)

Zotenberg, M. H., « Notice sur quelques manuscrits des *Mille et une nuits*, et la traduction de Galland », in *Notice et extraits des manuscrits de la Bibliothèque nationale de Paris*, n°28, 1888, pp.167-320

アイソポス 『イソップ寓話集』 山本光雄訳、岩波文庫、岩波書店、1978年

アーウィン、ロバート 『必携アラビアン・ナイト——物語の迷宮へ』 西尾哲夫訳、平凡社、1998年

--- 『アラビアン・ナイトメア』 若島正訳、国書刊行会、1999年 (Robert Irwin, *The Arabian Nightmare*, Dedalus (London), 1983)

青柳悦子 「ディスクールの思想家バフチンによる他者論——フランス (ポスト) 構造主義の文脈との関連」、阿部軍治編 『バフチンを読む』、日本放送出版協会、1997年所収

--- 「同一と他のめまい——ジュネットによる文学批評領域の開拓」、『言語文化論集』 (筑波大学現代語・現代文化学系) 第48号、1998年

--- 「ジュネットにおける“フィギュール”」、『言語文化論集』 (筑波大学現代語・現代文化学系) 第46号、1998年

--- 「提喩的めまい——ジェラルド・ジュネットにおける文学現象の探究」、日本記号学会編 『グローバルゼーション/ナショナリズム (記号学研究 19)』、東海大学出版会、1999年、pp.167-178

--- 「『アラビアン・ナイト』の逆説的世界——そのテキスト特性についての予備的考察」、『言語文化論集』 (筑波大学現代語・現代文化学系) 第50号、1999年

--- 「『アラビアン・ナイト』にみる仮設的文学作品の可能性」、日本記号学会編 『文化の仮設性——建築からマンガまで (記号学研究 20)』、東海大学出版会、2000年、pp.183-194

--- 「小説的思考における他者との融合」、土田友則・青柳悦子 『文学理論のプラクティス』、新曜社、2001年、pp.55-77

--- 「物語における重層話法——試論」、『言語文化論集』 (筑波大学現代語・現代文化学系)、第65号、2004年、pp.171-225

--- 「『千夜一夜』における主人公像——無能と人間肯定」、『文藝言語研究』 文藝篇 (筑波大学大学院人文社会科学研究科文芸・言語専攻紀要) 第48号、2005年

--- 「『アラビアン・ナイト』」、土田知則編 『あらすじと読みどころで味わう 世界の長編文学』、新曜社、2005年

--- 「範例性と文学——デリダの論考から(1)」、『文藝言語研究 文藝篇』 (筑波大学大学院人文社会科学研究科文芸・言語専攻紀要) 第49号、2006年、pp.95-151

--- 「範例性と文学——デリダの論考から(2) [自己の特個性と普遍性]」、『文藝言語研究 文藝篇』 第50号、2006年、pp.25-93

--- 「日・英・仏語における物語言語ルールの比較」、『比較文学研究』 (筑波大学第二学群比較文化学類) 第2号、2006年、pp.1-12

--- 「日・英・仏語の物語文と世界認識——タクシスの構成法の開発に向けて」、『ことば工学研究会第22回資料』 (人工知能学会第2種研究会)、2006年、p.22-31

--- 「範例性と文学——デリダの論考から(3) [虚構文学の範例性]」、『文藝言語研究 文藝篇』第 51 号、2007 年、pp.75-152

赤羽研三『言葉と意味を考える I 隠喩とイメージ』、『言葉と意味を考える II 詩とレトリック』、夏目書房、1998 年。

上利博規「デリダと文学」、『静岡大学人文学部 人文論集』第 49 号、1998 年、 pp.51-80

--- 『デリダ 人と思想』、清水書院、2001 年

--- 「「絵画における真理」をめぐるデリダの言説」、『静岡大学人文論集』54-2、2003 年、pp.1-22

アガンベン、ジョルジュ『バートルビー——偶然性について』、月曜社、2005 年（原書、Giorgio Agamben, “Bartleby o della contingenza”, in Agamben & Gilles Deleuze, *Bartleby: La formula della creazione*, Quodlibet, 1993, pp.43-85)

東浩紀『存在論的、郵便的——ジャック・デリダについて』、新潮社、1998 年

阿刀田高『アラビアンナイトを楽しむために』（親本 1983 年）、新潮文庫、新潮社、1986 年

アトリー、フランシス・リー「民衆文学——研究方法からの定義」、アラン・ダンデス他著『フォークロアの理論——歴史地理的方法を越えて』荒木博之編訳、法政大学出版社、1994 年所収

阿部軍治編『バフチンを読む』、NHKブックス、日本放送出版協会、1997 年

天野喜孝（画）・松本隆（文）『葡萄姫』、講談社、1996 年

天野喜孝（監修）『1001 Nights』、角川文庫、角川書店、1999 年

アル・ハリリー「マカーマート集」堀内勝訳・解説、『月刊シルクロード』第 4 巻 10 号～第 6 巻 15 号、1978-80 年。

池内紀『カフカを読む——池内紀の仕事場 第 3 巻』、みすず書房、2004 年

池田修「イスラムが、多くの民族と広大な地域をひとつの文化圏に統一した。」、『週刊朝日百科 世界の文学 118 コーラン アラビアン・ナイト』朝日新聞社、2001 年、pp.226-227

--- 「『アラビアン・ナイト』 信仰と空想が拓げる世界の涯」、『週刊朝日百科 世界の文学 118 コーラン アラビアン・ナイト』、朝日新聞社、2001 年、pp.232-234

井筒俊彦『イスラーム思想史——神学・神秘主義・哲学』岩波書店、1975 年

--- 『イスラーム哲学の原像』、岩波新書、岩波書店、1980 年

--- 『意味の深みへ——東洋哲学の水位』、岩波書店、1985 年

--- 『コスモスとアンチコスモス』、岩波書店、1989 年

--- 『イスラーム文化——その根底にあるもの』（親本 1981 年）、岩波文庫、岩波書店、1991

--- 『イスラーム思想史』、中公文庫、中央公論社、1991

大場正史『あらびあんないと事典』、青蛙書房、1961 年

荻原規子『これは王国のかぎ』中央公論新社、1999 年

オースター、ポール『孤独の発明』柴田元幸訳、新潮文庫、新潮社、1996 年

桂令夫『イスラム幻想世界：怪物・英雄・魔術の物語』、新紀元社、1998

カーニー、リチャード編、『現象学のデフォルマシオン』 毬藻充・松葉祥一・庭田茂吉訳、現代企画室、1998年（原書、Richard Kearney, *Dialogue with Contemporary Continental Thinkers: The Phenomenological heritage*, Manchester University Press, 1984）

カフカ、フランツ「判決」池内紀訳、『カフカ短編集』池内紀編訳、岩波文庫、岩波書店、1987年

柄谷行人『探求Ⅰ』、講談社、1986年〔講談社学術文庫、1992年〕

---『探求Ⅱ』、講談社、1989年〔講談社学術文庫、1992年〕

木島安史『カイロの邸宅：アラビアンナイトの世界』、丸善、1990年

北山晴一「このひと・この3冊 ボードリヤール」、毎日新聞 2007年4月29日（日）、東京版、朝刊11面

グタス、ディミトリ『ギリシア思想とアラビア文化：初期アッバース朝の翻訳運動』、勁草書房、2004年（原書、Dimitri Gutas, *Greek thought, Arabic culture: the Graeco-Arabic translation movement in Baghdad and early Abbasid society (2nd-4th/8th-10th centuries)*, Routledge, 1998）

工藤庸子『ヨーロッパ文明批判序説』、東京大学出版会、2003年

クリストフ、アゴタ『悪童日記』、堀茂樹訳、早川書房、1991年

グリム兄弟『完訳 グリム童話集』、金田鬼一訳、第1～5巻、岩波文庫、岩波書店、1979年

黒田壽郎『イスラームの構造』、書肆心水、2004年

国立民族学博物館編・西尾哲夫責任編集『アラビアンナイト博物館』、東方出版、2004年

小林一枝『「アラビアンナイト」の国の美術史——イスラーム美術入門』、八坂書房、2004年

--- [中心執筆]「挿絵からアートへ」、国立民族学博物館編『アラビアンナイト博物館』、2004年、pp.82-89

--- [中心執筆]「シャガールのリトグラフ『アラビアン・ナイト』からの4つの物語」、国立民族学博物館編『アラビアンナイト博物館』、2004年、pp.90-91

斉藤栄三郎『アラビアン・ナイトの世界』、巖南堂書店、1975年

佐々木健一「引用をめぐる三声のポリフォニー」、『現代哲学の冒険⑤ 翻訳』岩波書店、1990年所収

塩尻和子「コーランにみる「世界の創造」」、月本昭男編『創世神話の研究』、リトン、1996年所収

--- 「Daniel Gimaret, *La doctrine d'al-Ash'arī*」〔書評〕、『オリエント』（日本オリエント学会）第39巻第2号、1996、pp.116-122

--- 「アラベスクの世界——イスラームと美術」(1)(2)、『中東協力センターニュース』1999年4・5月号、pp.54-58、10-11月号、pp.29-36〔塩尻『イスラームを学ぼう』、秋山書店、2007年、pp.91-113に再録〕

--- 『イスラームの倫理——アブドゥル・ジャッバール研究』、未来社、2001年

--- 「アシュアリー神学の位置づけ」、『宗教と倫理』第2号、2002年、pp.23-36

- 「イスラーム神学にみる原子論的宇宙論——アシュアリーからジュワイニーまで」、『宗教哲学研究』（京都宗教哲学会）第2号、2005年、pp.17-32
- 『イスラームを学ぼう——実りある宗教間対話のために』、秋山書店、2007年
- 塩尻和子・池田美佐子『イスラームの生活を知る事典』、東京堂出版、2004年
- シドウ、フォン「民話について」、ダンデス他『フォークロアの理論』、法政大学出版局、1994年所収
- 杉田英明『事物の声絵画の詩——アラブ・ペルシア文学とイスラム美術』、平凡社、1993年
- 『浴場から見たイスラーム文化』、世界史リブレット18、山川出版社、1994年
- 『日本人の中東発見——逆遠近法のなかの比較文化史』、東京大学出版会、1995年
- 「『アラビアン・ナイト』翻訳事始——明治前期日本への移入とその影響」、『東京大学大学院総合文化研究科・教養学部外国語研究紀要』第4号、1999年、pp.1-57
- 「『アラビアン・ナイト』世界の芸術家の靈感源」、『週刊朝日百科 世界の文学118 コーラン アラビアン・ナイト』、朝日新聞社、2001年、pp.228-231
- 『葡萄樹の見える回廊——中東・地中海文化と東西交渉』、岩波書店、2002年
- 「語学教材としての『アラビアン・ナイト』——明治～昭和前期を中心に」、『ODYSSEUS』第11号、東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻、2006年、pp.1-31
- 「『アラビアン・ナイト』原典講読事始——昭和前期におけるアラビア語研究の先達たち」、『東洋文化』第87号、東洋学会・東京大学東洋文化研究所、2007年、pp.205-225
- 関根謙司「アブール・ファトーフ・ルドワーン著「ブーラーク印刷所の歴史」〔書評〕、『イスラム世界』No.11、1976年、pp.64-69
- 『アラブ文学史——西欧との相関』、六興出版、1979年
- 曾野綾子『アラブのこころ』、サンケイ新聞社1976年、集英社文庫1979年
- ソーマデーヴァ『屍鬼二十五話 インド伝奇集』、上村勝彦訳、東洋文庫、平凡社、1978年
- 高橋哲哉『デリダ——脱構築』、シリーズ「現代思想の冒険者たち」28、講談社、1988年
- 高橋亨『源氏物語の詩学——かな物語の生成と心的遠近法』、名古屋大学出版会、2007年
- ダンデス、アラン他著・荒木博之編訳『フォークロアの理論——歴史地理的方法を越えて』、法政大学出版局、1994年
- チャーサー『完訳カンタベリー物語』、榊井迪夫訳、全3巻、岩波文庫、岩波書店、1973年（原書、Geoffrey Chaucer, *The Canterbury Tales*）
- 土田知則・青柳悦子『文学理論のプラクティス』、新曜社、2001年
- 土田知則「『卑俗な』という危うげな一語に託して——ポール・ド・マンの選択」（付、ポール・ド・マン「ドイツ占領下時代の新聞記事 四編」）、『思想』2006年12月号
- テイラー、アーチャー「フォークロアと文学研究者」、アラン・ダンデス他著・荒木博之編訳『フォークロアの理論——歴史地理的方法を越えて』、法政大学出版局、1994年所収
- 東長靖『イスラームのとらえ方』、世界史リブレット15、山川出版社、1996年
- ド・マン、ポール「ドイツ占領下時代の新聞記事 四編」、土田知則訳、『思想』2006年12月号

- 中井久夫・山口直彦『看護のための精神医学』（初版 2001 年）第 2 版、医学書院、2004 年
- 中村廣治郎『イスラム教入門』、岩波新書、岩波書店、1998 年
- 『イスラムの宗教思想』、岩波書店、2002 年
- ナスル、S・H『イスラームの哲学者たち』、黒田壽郎・柏木英彦訳、岩波書店、1975 年
- 西尾哲夫「アラビアン・ナイト研究の問題と展望」、『オリエント』第 37 巻第 2 号、日本オリエント学会、1995 年
- 「アラブ民衆文学のスターたち」、『週刊朝日百科 世界の文学 118 コーラン アラビアン・ナイト』、朝日新聞社、2001 年、pp.238-239
- 「特集 アラビアンナイト学への招待」（西尾哲夫責任編集）、『民博通信』第 100 号、国立民族学博物館、2003 年
- 『図説アラビアンナイト』、河出書房新社、2004 年
- 「無限に生まれる千二夜めの物語——マンガ、少女歌劇、映画、電子ゲーム」、『月刊みんな』2004 年 9 月号（「特集 21 世紀のアラビアンナイト」）、pp.2-5.
- 「欧米・日本におけるアラビアンナイト受容と中東イスラム世界イメージ形成」平成 14 年度～平成 17 年度科学研究費補助金（基盤研究 A）研究成果報告書、2006 年
- 「『アラビアンナイト』と中東世界の女性観——カイドの概念をめぐる」、『比較文学研究』第 87 号、2006 年
- 『アラビアンナイト——文明のはざまに生まれた物語』、岩波新書、岩波書店、2007 年
- バース、ジョン「ドニヤザード姫物語」、『キマイラ』國重純二訳、新潮社、1980 年（原書、John Barth, "Dunyazadiad" in *Chimera*, Random House, 1972)
- 『金曜日の本』志村正雄訳、筑摩書房、1989 年
- 蓮實重彦『表象の奈落——フィクションと思考の動体視力』、青土社、2006 年
- 『「赤」の誘惑——フィクション論序説』、新潮社、2007 年
- バートン、リチャード『千夜一夜の世界』大場正史訳、桃源社、1963 年
- バフチン、ミハイル『小説の時空間』北岡誠司訳、新時代社、1987 年
- 「1970—1971 年の覚え書き」新谷敬三郎訳、『バフチン著作集 8 ことば 対話 テキスト』新時代社、1988 年
- 『ドストエフスキーの詩学』、望月哲男・鈴木淳一訳、ちくま学芸文庫、筑摩書房、1995 年
- 『小説の言葉 付・小説の言葉の前史より』伊東一郎訳、平凡社ライブラリ、平凡社、1996 年
- ハマザーニ「ハマザーニ作『マカーマート』より——バグダードのマカーマ／獅子のマカーマ」杉田英明訳・解説、『へるめす』第 54 号、1995 年、pp.39-45
- 林好雄・廣瀬浩司『知の教科書——デリダ』、講談社、2003 年
- ハンブルガー、ケーテ『文学の論理』、植和田光晴訳、松籟社、1986 年
- 兵頭裕己「口承文芸総論」、『岩波講座・日本文学史』第 16 巻、1997 年

- 『〈声〉の国民国日本』、NHK ブックス、日本放送出版協会、2000年
- 『物語・オーラリティ・共同体——新語り物序説』、ひつじ書房、2002年
- 廣瀬浩司『デリダ——きたるべき痕跡の記憶』、白水社、2006年
- 深見奈緒子『世界のイスラーム建築』、講談社現代新書、講談社、2005年
- 福原信義「マリユドリュス版『アラビアン・ナイト』挿絵」、『週刊朝日百科 世界の文学 118 コーラン アラビアン・ナイト』、朝日新聞社、2001年、pp.240-241
- 藤野幸雄『探検家リチャード・バートン』、新潮選書、新潮社、1986年
- フロイト、ジークムント『自我論集』、中山元編、ちくま学芸文庫、筑摩書房、1996年
- ペリー、B・E『シンドバードの書の起源』西村正身訳、未知谷、2001年
- ペロー、シャルル『完訳 ペロー童話集』新倉朗子訳、岩波文庫、岩波書店、1982
- ベンジェルーン、ターハル『砂の子ども』、紀伊国屋書店、1996年
- 保坂修司『乞食とイスラーム』、筑摩書房、1994年
- ボッカチオ『デカメロン』野上素一訳、全6巻、岩波文庫、岩波書店、1949年（原書、Giovanni Boccaccio, *Il decameron*, 1349-1351）
- ボードレル、シャルル『ボードレル全集1』福永武彦編集、人文書院、1963年
- ボルヘス、ホルヘ・ルイス『永遠の歴史』土岐恒二訳、筑摩書房、1986年
- 『七つの夜』野谷文昭訳、みすず書房、1997年
- ホメーロス『オデュッセイアー』呉茂一訳、上巻、岩波文庫、1971年
- 「オデュッセイア」高津春繁訳、『筑摩世界文学大系2 ホメーロス』、筑摩書房、1971年所収
- 前嶋信次『アラビアン・ナイトの世界』（初版 1970）、平凡社ライブラリー、平凡社、1995年
- 『千夜一夜物語と中東文化——前嶋信次著作選1』（初版 1970）杉田英明編、東洋文庫、平凡社、1995年
- 牧野信也「アラビアの文学」、関根正雄・牧野信也・蒲生礼一『世界の文学史 10 ヘブライ・アラビア・ペルシアの文学』、明治書院、1967年
- 『イスラームの根源をさぐる——現実世界のより深い理解のために』、中央公論社、2005年
- マルグリット・ド・ナヴァール『エプタメロン』名取誠一訳、国文社、1988年（Marguerite de Navarre, *L'Heptaméron*, 1542-1549）
- 水野信男『音楽のアラベスク——ウンム・クルスームの歌のかたち』、世界思想社、2004年
- 宮崎正勝『イスラム・ネットワーク——アッバース朝がつなげた世界』、講談社、1994
- ムカッフアイ、イブヌ・ル、『カリーラとディムナ——アラビアの寓話』菊池淑子訳、東洋文庫、平凡社、1978年
- メルヴィル、ハーマン「バートルビー」、アガンベン『バートルビー——偶然性について』、

月曜社、2005年所収

メルニーシー、ファティマ『ハーレムの少女ファティマ』ラトクリフ川政祥子訳、未来社、1998

最上英明「[研究ノート]『千一日物語』の枠物語」、『香川大学経済論叢』第75巻第3号、2002年

森本和夫『デリダから道元へ』、福武書店、1989年

矢島文夫『アラビアンナイト 99の謎』（親本、サンポウジャーナル社、1978年）増訂版、PHP文庫、PHP研究所、1992年

柳田國男『口承文芸大意 岩波講座・日本文学61』、岩波書店、1932年

山中由里子「中東世界での再発見」、国立民族学博物館編・西尾哲夫責任編集『アラビアンナイト博物館』、2004年所収

ラシュディ、サルマン『ハールーンとお話の海』、青山南訳、国書刊行会、2002年（原書、Salman Rushdie, *Haroun and the Sea of Stories*, Granta Books in association with Penguinbooks, 1990）

リーマン、オリバー『イスラム哲学への扉——理性と啓示をめぐって』中村廣治郎訳、筑摩書房、1988年（原書、Oliver Leaman, *An introduction to medieval Islamic philosophy*, Cambridge University Press, 1985）

レヴィ＝ストロース、クロード『構造人類学』、荒川幾男ほか訳、みすず書房、1972年（原書、Claude Lévi-Strauss, *Anthropologie structurale*, Plon, 1958）

レヴィナス、エマニュエル『存在するとは別の仕方であるいは存在することの彼方へ』合田正人訳、朝日出版社、1990（原書、Emmanuel Levinas, *Autrement qu'être ou au-delà de l'essence*, La Haye : Martinus Nijhoff, 1974）

鷺田清一『教養としての「死」を考える』、洋泉社、2004年

---「あなたは今、孤独ですか」〔鷺田清一への取材をもとにした特集記事〕、『毎日新聞』、2007年4月18日、東京夕刊

〈著者名のない著作〉

The Adventures of Antar, translated by H.T. Norris, Warminster, Wilts (England): Aris & Phillips Ltd., 1980

Arabic-English Dictionary, The Hans Wehr Dictionary of Modern Written Arabic, edited by J. M. Cowan, Spoken Language Services, Inc., 1994

La Bible, Ancien Testament, Édouard Dhorme éd., coll. Pléiade, Gallimard, 1956（邦訳『新共同訳 聖書』日本聖書協会、1991年）

GDEL, Grand dictionnaire encyclopédique Larousse, 10 vols., Larousse, 1983

Logos, Grand dictionnaire de la langue française, Bordas, 1976

『アジアの民話 12 パンチャタントラ』、田中於菟弥・上村勝彦訳、大日本絵画、1980年

『アラブの民話』イネア・ブシュナク編、久保儀明訳、青土社、1995年

『岩波イスラーム辞典』、岩波書店、2002年

『鸚鵡七十話 インド風流譚』田中於菟弥訳、東洋文庫、平凡社、1963年

『カタール・サリット・サーガラ——愚者物語』岩本裕訳、筑摩世界文学大系 9『インド アラビア ペルシア集』、筑摩書房、1974 年所収

『今昔物語集』池上洵一校注、全 5 巻、新日本古典文学大系 33-37、岩波書店、1993 年

『日亜対訳・注解 聖クルアーン』、日本ムスリム協会、1982 年

『パンチャ・タントラとヒトーパデーシャ』岩本裕訳、筑摩世界文学大系 9『インド アラビア ペルシア集』、筑摩書房、1974 年所収

『魅惑の影絵アニメーション ロッテ・ライニガーの世界』、アスミック・エース・エンタテインメント (株)、2005 年

〈雑誌等〉

『ペーパームーン』No.23、「少女漫画・千一夜」、新書館、1980 年

『週刊朝日百科 世界の文学 118 コーラン アラビアン・ナイト』(第 12 巻「アジア・アフリカ・オセアニア」に収録)朝日新聞社、2001 年

『民博通信』(「特集 アラビアンナイト学への招待」)第 100 号、2003 年

『月刊みんぱく』(「特集 21 世紀のアラビアンナイト」)通巻第 324 号、2004 年 9 月号

『週刊朝日百科 日本の美術館を楽しむ』第 16 号、2005 年 (2 月 6 日号)

〈映像資料〉〔公開年順〕

Lotte Reiniger, "Adventures of Prince Achmed", 1926 (ロッテ・ライニガー『アクメッド王子の冒険』)〔DVD:『アクメッド王子の冒険 特別版』、角川エンタテインメント、2006 年〕

大藤信郎「馬具田城の盗賊」1926 年〔DVD:『大藤信郎作品集』、紀伊國屋書店 (発売)、2004 年〕

Ludwig Berger, Michael Powell, Tim Whelan, "Thief of Bagdad", 1940 (ルドウィッヒ・ベルガー、マイケル・パウエル、ティム・フェーラン監督『バグダッドの盗賊』)〔DVD:『バグダッドの盗賊』、アイ・ヴィー・シー、2002 年〕

藪下泰司・黒田昌郎監督『アラビアンナイト シンドバッドの冒険』、1962 年〔DVD:東映ビデオ株式会社、2002 年〕

Pier Paolo Pasolini, "Il Fiore delle mille e una notte", 1974 (パオロ・パゾリーニ『アラビアンナイト』)〔DVD:『パゾリーニ・コレクション 生の三部作 DVD-BOX』、エスピーオー (発売)、2003 年〕

Ron Clements, John Musker, "Aladdin", 1992 (ロン・クレメンツ、ロン・マスカー監督『アラジン』)〔DVD:『アラジン スペシャルエディション』、ブエナビスタホームエンターテイメント (発売)、2004 年〕

天野義孝製作・監修、マイク・スミス監督『1001Nights』、1998 年〔DVD『天野喜孝 1001Nights』、ビームエンタテインメント (ハピネットピクチャー)、2000 年〕

図版出典

第 I 部

第 I 部まとめ

p.222 概念図：柄谷行人『探究Ⅱ』、講談社、1989年、p.128

第 II 部

第 4 章

p.247 9世紀写本断片：Nabia Abbott, “A Ninth-Century Fragment of the ‘Thousand Nights’: New Lights on the early history of the Arabian Nights”, *Journal of Near Eastern Studies*, no. 8, 1949, Plate XV

p.249 レインの肖像画：Wikipedia、Edward Willam Lane のページ
http://en.wikipedia.org/wiki/Image:Edward_William_Lane.jpg

p.255 パリ国立図書館蔵写本（部分）：Muhsin Mahdi, *The Thousand and One Nights (Alf Layla wa-Layla) From the Earliest Known Sources, Part 2 : Critical apparatus, Description of Manuscripts*, E.J. Brill, 1984, Plate26, p.254

p.260 ガランの肖像：Margaret Sironval, *Album Mille et Une Nuits, Iconographie choisie et commentée par Margaret Sironval*, Bibliothèque de la Pléiade, Gallimard, 2005, p.26 (Morel の版画)

p.264 『エジプト誌』：雄松堂書店HP内、Net Pinus62、荒俣宏氏講演録「発見された古代エジプト」のページ <http://www.yushodo.co.jp/pinus/62/aramata/aramata.html>
および、DVD版『エジプト誌』の紹介ページ
<http://www.yushodo.co.jp/press/egypt/index.html>

p.269 ブーラク印刷所の写真と設計図：Bulaq, El-Amiriya Press のHP
<http://www.bibalex.org/bulaqpress/En/Bulaq.htm>

p.272 フォートウィリアム：コロンビア大学HP内、フォートウィリアム関連のページ
http://www.columbia.edu/itc/mealac/pritchett/00routesdata/1600_1699/calcutta/fortwilliam/fortwilliam.html
および Guardian Unlimited Arts のHP内、Fort William, Calcutta のページ
<http://arts.guardian.co.uk/pictures/image/0,8543,-10905065261,00.html>

p.277 リチャード・バートン関連
アラブ風の衣装を着たバートン（19世紀の絵画）：http://en.wikipedia.org/wiki/Richard_Burton
バートン版『千夜一夜』：http://en.wikipedia.org/wiki/Richard_Francis_Burton
バートン晩年の肖像画：http://en.wikipedia.org/wiki/Richard_Francis_Burton

p.287 リチャードソンの『アラビア語文法』対訳部分：John Richardson, *A Grammar of the Arabic Language. In which Rules are Illustrated by Authorities from the Best Writers; Principally adapted for the Service of the Honourable East India Company*, (1776), 1801, pp.200-201

第5章

- p.294 ブーラク版のページレイアウト : *The Book of a Thousand and one night*, reprinted on an original copy of the Bulaq edition of 1252 A.H" (2vols), vol.1, p.14-15
- p.295 ガラン版のページレイアウト : L'art du livre arabeのHP内、Mille et une nuitsの2ページ目 <http://expositions.bnf.fr/livrarab/grands/158.htm>
- p.297 カルカット第二版のページレイアウト : マイクロフィルム版からのコピー、*Book of Thousand Nights*, by Sir W. H. Macnaghten (4vols.), Calcutta, 1839-1842 [filmed by the British Library], vol.1, pp.408-409.
- p.326 ガラン訳『千一夜』(1840)の扉絵 : *Les Mille et une Nuits. Contes arabes traduits par Galland. Edition illustrée par les meilleurs artistes français et étrangers, revue et corrigée sur l'édition Princeps de 1704* augmentée d'une dissertation ... par le Baron Silvestre de Sacy, Paris, Ernest Bourdin, 1840 (Wattier 画にもとづく Rouget の版画)
- p.326 パートン版の装丁 : *The Book of the Thousand nights and a night, translated from the Arabic by Sir R.F. Burton ; reprinted from the original edition and edited by Leonard C. Smithers* ; illustrated, London : H.S. Nichols, 1897 (12vols), vol.4 (写真撮影)
- p.327 マルドリュス訳の豪華本 : 『週刊朝日百科 世界の文学 118 コーラン アラビアン・ナイト』、朝日新聞社、2001年、p.240
- p.330 通りの講釈師たち (レイン『現代エジプトの風俗』の挿絵から) : 『週刊朝日百科 世界の文学 118 コーラン アラビアン・ナイト』、p.238
- p.340 「妖精文庫」の挿絵 : *Les Mille et une nuits, contes arabes, traduits par Galland ; éd. revue et préface par Gaston Picard, Garnier, 1960* (2vols.), vol.1 口絵 (マリリエ Marillier の絵にもとづく版画、ガラン版の *Histoire de Nourreddin* の挿絵)
- p.340 シャガールのリトグラフ : Weinstein gallery のHP内、Marc Chagall – The Arabian Nightsのページ http://www.weinstein.com/chagall/arabian_nights.html
- p.340 三島由紀夫作『アラビアン・ナイト』舞台シーン : 『週刊朝日百科 世界の文学 118 コーラン アラビアン・ナイト』、p.231
- p.340 宝塚ミュージカル「翔んでアラビアンナイト」 : Yahooオークションでのパンフレット紹介から <http://page6.auctions.yahoo.co.jp/jp/auction/f59206901>
- p.341 デュラック画「踊るモルギアナ (マルジャーナ)」 : 雑誌『ペーパームーン』No.23、「少女漫画・千一夜」、新書館、1980年、p.28
- p.341 香坂ゆう (イラスト) 『これは王国のかぎ』 : 荻原規子 『これは王国のかぎ』 中央公論新社、1999年、表紙カバー
- p.343 ロッテ・ライニガー『アクメッド王子の冒険』からのシーン : 『魅惑の影絵アニメーション ロッテ・ライニガーの世界』(2005年11月、ライニガー作品のステレオサウンド・修復ニュープリント版上映に際してのパンフレット) より
- p.344 大藤信郎「馬具田城の盗賊」の広告 : 『キネマ旬報』第230号、大正15年(6月11日号) p.19 広告ページ ; フィルムの数コマ : 『週刊朝日百科 日本の美術館を楽しむ』第16号、2005年(2月6日号)、p.24
- p.345 天野喜孝『1001Nights』からのシーン : DVD『天野喜孝 1001Nights』、ビームエンタテインメント(ハピネットピクチャー)、2000年、付録パンフレットより